

令和 7 年度

湧別町教育委員会
点検・評価報告書

令和 8 年 9 月

湧別町教育委員会

もくじ

1	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	(1) 趣旨	
	(2) 点検・評価の対象	
	(3) 点検・評価の流れ	
2	教育委員会の活動状況・・・・・・・・・・	3
	(1) 教育委員会会議の開催及び審議状況	
	(2) 教育委員会会議の項目別点検	
	(3) 教育委員会会議以外の活動状況	
3	点検評価報告書・・・・・・・・・・	8
	(1) 学校教育	
	No. 1 学校運営事業（小中一貫教育の推進）	
	No. 2 “（学力向上の取り組み）	
	No. 3 “（ICT教育）	
	No. 4 “（安全・安心な学校づくり）	
	No. 5 “（豊かな心と健やかな体の育成）	
	No. 6 “（特別支援教育の推進）	
	No. 7 部活動地域移行事業	
	No. 8 中高一貫教育推進事業	
	No. 9 北海道湧別高等学校存続対策事業	
	No. 10 国際理解教育事業	
	No. 11 学校給食センター運営事業	
	(2) 社会教育	
	No. 1 社会教育振興事業（家庭教育）	
	No. 2 “（青少年教育）	
	No. 3 “（成人教育）	
	No. 4 “（高齢者教育）	
	No. 5 社会教育施設	
	No. 6 スポーツ活動振興事業	
	No. 7 芸術文化活動振興事業	
	No. 8 博物館・文化財保護活動	
	No. 9 図書館活動振興事業	
4	事業実績表・・・・・・・・・・	38
	(1) 令和7年度学校教育事業の実績表	
	(2) 令和7年度社会教育事業の実績表	
5	外部評価・・・・・・・・・・	55
6	参考資料・・・・・・・・・・	59
	(1) 令和7年度 教育行政執行方針	
	(2) 湧別町教育目標、湧別町学校教育目標、湧別町社会教育目標	

1 はじめに

(1) 趣旨

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、各教育委員会において、毎年、教育行政事務の管理及び執行状況について、点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。

このことを受け、湧別町教育委員会は効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民の皆様への説明責任を果たすため、教育委員会の事務の管理及び執行状況について、点検・評価を行い、学識経験者の意見を付して報告書を作成・公表しております。

(2) 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、教育委員会の活動状況等の点検のほかに、令和7年度教育行政執行方針に掲げられた主要な事業の実施状況について点検・評価を行いました。

(3) 点検・評価の流れ

「教育委員会会議の活動状況」等については、教育委員会会議の開催状況や会議に付議された案件等について、項目別に点検を行うとともに、委員が出席した会議等の点検を行いました。

「点検・評価報告書」については、「令和7年度教育行政執行方針」に掲げられた主要な事業の内容、事業成果、自己評価及び今後の課題と方策を所管課が作成するとともに、点検・評価の客観性を確保するため、点検・評価の方法や結果などについて学識経験を有する方からのご意見を聴取しています。

【参考】

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 教育委員会の活動状況

(1) 教育委員会会議の開催及び審議状況

湧別町教育委員会の会議は原則として、毎月1回の「定例会」と、必要に応じて開催する「臨時会」があり、令和7年度は、合計14回の会議を開催しました。

この会議において、教育行政の基本方針の決定、教育に関する規則の制定など、様々な議題について審議等を行っております。

期 日	付議案件等（○～報告、□～議案、△協議）
R7. 4. 28 【定例】	☐ 湧別町学校給食センター条例施行規則の一部を改正する規則の制定について ☐ 教職員住宅の用途廃止について ☐ 湧別町学校運営協議会を設置する学校の決定について ☐ 湧別町学校運営協議会委員の解任および任命について ☐ 湧別町教育支援委員会委員の解嘱及び委嘱について ☐ 湧別町学校給食センター運営委員の解嘱及び委嘱について ☐ 湧別町社会教育委員の委嘱について ☐ 湧別町図書館協議会委員の任命について ☐ 令和7年度奨学生決定について
R7. 5. 26 【定例】	☐ 第40回サロマ湖100kmウルトラマラソンの開催について ☐ 湧別町立学校クラウドサービスに係るアカウント取扱要綱の制定について ☐ 湧別町相互交流事業ニュージーランド・セルウィン町派遣事業参加者の決定について ☐ 令和7年度湧別町社会教育推進計画の策定について ☐ 令和6年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について ☐ 令和7年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について ☐ 教育委員の辞職の同意について
R7. 6. 12 【定例】	☐ 湧別町立学校養護教諭及び栄養教諭の標準的な職務の内容及びその例並びに職務の遂行に関する要綱の一部を改正する要綱の制定について ☐ 令和7年度教育費予算の補正について ☐ 湧別町学校医の解任及び任命について ☐ 湧別町教育支援委員会委員の解嘱及び委嘱について ☐ 令和7年度準要保護児童生徒の認定について
R7. 7. 28 【定例】	☐ 教育委員会委員の任命の同意について ☐ 教育財産の取得について

期 日	付議案件等（○～報告、□～議案、△協議）
	☐ 令和 7 年度教育費予算の補正について ☐ 令和 7 年度準要保護児童生徒の認定について
R7. 8. 28 【定例】	☐ 施設整備計画の事後評価について ☐ 令和 8 年度に義務教育学校前期課程において使用する教科用図書の採択について ☐ 令和 8 年度に義務教育学校後期課程において使用する教科用図書の採択について ☐ 令和 8 年度に使用する教科用図書のうち学校教育法附則第 9 条に規定する教科用図書の採択について ☐ 令和 7 年度全国学力・学習状況調査の結果公表について
R7. 9. 10 【定例】	☐ 湧別町通学費補助要綱の一部を改正する要綱の制定について ☐ 北海道湧別高等学校存続対策事業実施要綱の一部を改正する要綱の制定について ☐ 令和 7 年度教育費予算の補正について ☐ 令和 6 年度教育委員会の活動状況に関する点検・評価報告書（案）について
R7. 10. 21 【定例】	☐ 教育委員会委員の任命の同意について ☐ 令和 7 年度全国学力・学習状況調査の結果の公表内容について
R7. 11. 25 【定例】	☐ 学校体育館空調設備の整備に係る施設整備計画の策定について ☐ 湧別町学校給食センター運営委員の委嘱について ☐ 令和 7 年度準要保護児童生徒の認定について
R7. 12. 8 【定例】	☐ 令和 7 年度教育費予算の補正について
R7. 12. 26 【臨時】	☐ 教育委員の辞職の同意について
R8. 1. 16 【定例】	☐ 湧別町通学路交通安全プログラムの改訂について ☐ 令和 8 年度教育委員会関係当初予算について ☐ 令和 7 年度準要保護児童生徒の認定について ☐ 教育委員会所管職員の事務分掌異動について ☐ 令和 7 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果公表について
R8. 2. 26 【定例】	☐ 教育委員会委員の任命の同意について ☐ 湧別町招致外国青年任用規則の一部を改正する規則の制定について ☐ 湧別町立の義務教育学校部活動指導員配置事業実施要綱の制定について

期 日	付議案件等（○～報告、□～議案、△協議）
	☐ 湧別町部活動地域移行検討委員会設置要綱の一部を改正する要綱の制定について ☐ 令和7年度教育費予算の補正について ☐ 学校給食費の改定について ☐ 令和8年度教育行政執行方針について ☐ 令和8年度教育費予算について ☐ 湧別町図書館協議会委員の解任について
R8. 3. 18 【定例】	☐ 令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果公表内容について ☐ 北海道湧別高等学校存続対策事業実施要綱の一部を改正する要綱の制定について ☐ 教職員住宅の用途廃止について ☐ 湧別町学校医等の任命について ☐ 湧別町教育アドバイザーの任命について ☐ 令和8年度準要保護児童生徒の認定について ☐ 校長・教頭の任免の内申について
R8. 3. 27 【臨時】	☐ 教職員の人事異動について ☐ 教育委員会教育長職務代理者の指名について ☐ 湧別町学校運営協議会委員の解任及び任命について ☐ 湧別町教育支援委員会委員の解嘱について ☐ 湧別町学校給食センター運営委員の解嘱及び委嘱について ☐ 湧別町社会教育委員の解嘱について ☐ 令和8年度湧別町立小学校、中学校及び義務教育学校の学級編制について ☐ 教育委員会所管職員の事務分掌異動について

(2) 教育委員会会議の項目別点検

湧別町教育委員会行政組織規則第6条の規定により、教育委員会会議での議決が必要である事項のうち、令和7年度において教育委員会会議にかけられた議案等を分類し、適切に付議されているかどうか点検を行いました。

項 目	件数
① 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること。	2
② 教科用図書採択に関すること。	3
③ 法規たる性質を持つ教育委員会告示に関すること。	7
④ 学校教育及び社会教育に関する一般方針の定めに関すること。	1
⑤ 学級編成に関すること。	1
⑥ 道費負担教職員たる校長及び教頭の任免その他進退ついでの内申に関すること。	1
⑦ 歳入歳出予算の要求その他議会の議決を経るべき事項に関すること。	9
⑧ 奨学金に関すること。	1
⑨ 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること。	1
⑩ 教育委員会の権限に属する事務の点検及び評価に関すること。	1
⑪ 法令又は条例に基づく委員等の任命（委嘱）に関すること。	16
⑫ 要保護及び準要保護児童生徒の認定に関すること。	7
⑬ 国際理解教育に関すること	1
⑭ その他異例又は重要な事項に関すること。	3
⑮ 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。	4
報告	10
協議	2
合 計	70

令和7年度に湧別町教育委員会会議に付議された案件のうち、多かったものとしては、「⑪法令又は条例に基づく委員等の任命（委嘱）に関すること。」、次いで、「⑦歳入歳出予算の要求その他議会の議決を経るべき事項に関すること。」、「③法規たる性質を持つ教育委員会告示に関すること。」であります。

教育委員会会議の議案作成のため、議案審議の他に報告や協議を実施しています。

(3) 教育委員会会議以外の活動状況

令和7年度については、教育委員会会議のほか、研修会、会議、学校訪問、入学式や卒業式などにも出席しております。

※教育長を除く

期 日	活 動 内 容	出席委員数
R7. 4. 2	教職員辞令交付式	4 名
R7. 4. 7	上湧別学園開校式	3 名
	ゆうべつ学園入学式	1 名
	芭露学園入学式	1 名
	上湧別学園入学式	2 名
R7. 4. 19	上湧別学園開校記念式典	4 名
R7. 5. 7	遠軽地区教育委員会協議会総会・研修会	3 名
R7. 6. 7	上湧別学園運動会	4 名
	ゆうべつ学園運動会	3 名
	芭露学園運動会	3 名
R7. 7. 7	オホーツク管内教育委員会協議会総会	1 名
R7. 7. 17-18	北海道市町村教育委員研修会	3 名
R7. 10. 18	芭露学園学園祭	3 名
R7. 10. 21	学校訪問	2 名
R7. 10. 25	ゆうべつ学園学園祭	2 名
R7. 11. 1	上湧別学園学園祭	3 名
R7. 11. 14	上湧別学園学園祭（合唱）	2 名
R7. 11. 28-29	令和7年度市町村教育委員会委員研修会	1 名
R7. 12. 22-23	オホーツク管内市町村教育委員大会	3 名
R8. 1. 11	20歳の集い	2 名
R8. 1. 16	総合教育会議	3 名
R8. 3. 13	上湧別学園卒業式	1 名
	芭露学園卒業式	2 名

3 点検評価報告書

(1) 学校教育

No.	1	事業名	学校運営事業（小中一貫教育の推進）	担当課	教育総務課
執行方針	今年は本町全ての学校が義務教育学校になる始めの年になります。湧別町の新しい教育を創造する節目の年として、互いに連携を図りつつ、それぞれの学校の特色を活かした学校づくりを推進し、教職員が一丸となって9年間の学びに責任を持つ学校づくりを進めてまいります。 小中一貫教育を進めるうえで、子ども同士が理解し合い、頼り合えるなどお互いに安心できる人間関係を築ける学校づくりが重要であります。「一人残らず全ての子どもの学ぶ権利を保障する」「どの子どもも安心して学ぶことができる環境を創る」という理念に基づき、全ての教職員が9年間の全体像を把握し、互いに協力しながら学習指導や生徒指導などの教育活動に取り組みながら子どもたちを守り育てる「学校づくり」を行ってまいります。 また、幼児期から前期課程へ学びを接続することも重要であります。幼保小期間の教育の充実のため、こども園や保育所と互いに連携と交流が図れるよう検討してまいります。				
事業内容	1 上湧別学園開校記念事業支援 2 湧別町型学校力向上事業の実施 3 こども園・保育所・義務教育学校交流会の開催				
事業成果	1 上湧別学園開校記念事業支援 上湧別地区義務教育学校開設準備委員会主催による上湧別学園開校記念式典の開催に対して支援を行った。 2 湧別町型学校力向上事業の実施 「湧別町学校力向上プラン」に基づき行う事業として位置付け、教育アドバイザーによる毎月の定期的な学校訪問の他、必要に応じて随時の学校訪問や教育委員会への来所等により、校長・教頭に対する指導助言を行った。また、毎月開かれる校長会議等の機会を通じ、各学校管理職に対し授業改善等に関する連絡・調整を図り、学校力向上に向けた指導助言を行った。 3 こども園・保育所・義務教育学校交流会の開催 教育アドバイザーが中心となり、こども園・保育所・義務教育学校交流会を開催した。互いの授業参観・行事への案内や引継ぎ前の前期課程教員のこども園参観、前期課程とこども園の合同授業といった交流を計画することとなった。				
課題	本町全ての学校が義務教育学校となったが、9年間の系統性・連続性のある学びと特色を生かした学校づくりを実現するには、学校の組織体制が固まり、機能するまでの時間の保障とサポートが必要である。 また、「安心できる人間関係」を築く、学習指導と生徒指導の一体的な充実を図った授業づくりが進んでいるが、今後はさらに学校間・教員間の差を少なくしていくことが課題である。				

改善方策	学校運営の安定とマネジメントサイクルの確立により特色ある学校づくりが進むよう、プランに基づく訪問指導を継続する。また、「一人残らず全ての子どもの学ぶ権利を保障する」「どの子どもも安心して学ぶことができる環境を創る」という理念を実際の授業づくりに反映することができるよう、定期的な授業参観及び指導助言を行う。 幼児期から前期課程への学びの接続については、それぞれの必要感や納得を基盤に交流の範囲を少しずつ広げながら、連携をさらに深めていく。
------	---

No.	2	事業名	学校運営事業（学力向上の取り組み）	担当課	教育総務課
-----	---	-----	-------------------	-----	-------

執行方針	昨年度の本町の全国学力・学習状況調査での平均正答率は、小学校が全国平均と概ね同等程度であります。中学校では全国平均に比べ低い状況にあるものの、これまで各学校において取り組んでいる「学び合いのある学び」が一定程度の成果を見せております。本年は基礎学力の定着や思考・判断・表現力を養うため、主体的・対話的で深い学びの授業に取り組み、湧別町全体の学力向上を図ってまいります。 また、北海道大学大学院教育学研究院の支援により取り組んでまいりました「学びの共同体」の授業スタイルを全ての義務教育学校で取り入れ、「湧別町学校力向上プラン」をより一層推進していくとともに「湧別町型学び合いのある学び」を充実させ、子ども誰一人もひとりにせず、どの子どもも安心して学ぶことができる学校づくりに取り組んでまいります。
事業内容	1 全国学力・学習状況調査における取組 2 放課後や長期休業を活用した補充学習や学力向上支援員活用の実施 3 湧別町型「学び合いのある学び」研修事業（旧・北海道大学との連携による授業改善事業）の実施 4 学校教育推進協議会における教職員研修の充実
事業成果	1 全国学力・学習状況調査における取組 学力の向上を図るため、指導方法の工夫・改善による取組を行ったこと等により、令和7年度の全国調査の結果では、小学校では国語・算数・理科すべてで全国平均を上回った。一方、中学校では国語・数学は全国平均を下回り、理科のみ全国平均を上回る結果となった。 2 放課後や長期休業を活用した補充学習や学力向上支援員活用の実施 例年、夏・冬期休業期間に湧別高校生徒の協力により実施している、学習サポート事業「まなびいタイム」を実施した。学力向上支援員については、芭露学園に1名を配置し、複式学級における授業支援の他、ティームティーチングや習熟度別指導を行う等、学力向上に向けた取り組みを継続した。この他、すべての学校で、北海道教育委員会が提供する「チャレンジテスト」を実施し学習内容の定着を図った。 3 湧別町型「学び合いのある学び」研修事業（旧・北海道大学との連携による授業改善事業）の実施 町内義務教育学校における主体的・対話的で深い学びの充実に向けて、5月30日、10月1日、2月12～13日に北海道大学名誉教授 守屋淳氏を招聘し、実

事業成果	実践校である上湧別学園及びゆうべつ学園において研修会を実施し、芭露学園については協力校として本研修会への参加という形で、授業改善の方向性や子どもの学びを如何に保障していくか等について町内全ての教職員が学ぶ機会を創出した。 4 学校教育推進協議会における教職員研修の充実 全町学力向上事業として、10月1日上湧別学園において東京大学名誉教授・佐藤学氏を招聘し、「学び合いのある学び」の理論的背景となっている「探究と協同の学び」による授業改革について学んだ。1月22日には、湧別町文化センターさざ波において、麻布教育研究所副所長・永島孝嗣氏を招聘し、教職の専門性の世界的潮流からみた授業づくりと授業研究づくりの関係論について学んだ。 また、道内の先進校視察を3回（枝幸町立音標小学校、浜頓別町立浜頓別中学校[感染症蔓延につき中止]、札幌市立有明小学校）、道外の先進校視察を1回（福島県須賀川市・沢石町）実施し、「学び合いのある学び」の授業改善に直結する研修となった。 さらに、教職員研修事業として公立学校共済組合総務部長・谷川敦氏を招聘し、働き方改革・メンタルヘルス等に関する研修会を実施。職場におけるやりがいやウェルビーイングを創出するために、どのように働き方改革の取組を進め、職員のメンタルヘルスを維持していくべきか、その考え方や方法等について学んだ。
課題	湧別町型学校力向上事業や湧別町型「学び合いのある学び」研修事業、全町学力向上事業、先進校視察、教職員研修事業等、様々な学力向上施策を行うことにより確実に主体的・対話的で深い学びの授業改善は進んでいる。令和7年度の全国調査の結果では、小学校では国語・算数・理科すべてで全国平均を上回った。一方、中学校では国語・数学は全国平均を下回り、理科のみ全国平均を上回る結果となった。特に課題となっているのは思考力・判断力・表現力であり、義務教育学校9年間の系統性・一貫性ある指導を研究するとともに、授業改善に直結する取組を行う必要がある。
改善方策	全国調査の結果を踏まえて、各学校において前期課程から後期課程の「伸び」に着目した分析を行うとともに、特に課題となっている思考力・判断力・表現力の育成について、単元全体を見通した授業づくりや学習課題の工夫、対話的な学びの充実に取り組むよう、引き続き教育アドバイザーによる学校への指導助言、指導室と学校の連携を継続する。 湧別町型「学び合いのある学び」研修事業では、実践校と協力校の区別をなくし、学校の主体的な取組を促すとともに、町内全ての学校における授業改善並びに学力向上に向けた研修会の実施を支援する。また、取組の方向性を焦点化するため、湧別町型学校力向上事業や全町学力向上事業を本事業と一本化する。

No.	3	事業名	学校運営事業（ＩＣＴ教育）	担当課	教育総務課
執行方針	現在 GIGA スクール構想により整備された 1 人 1 台端末を使った学習は日常のこととなり、児童生徒は他の文房具と同じようにタブレットを使いこなしております。タブレットを活用することで、学習がより一層充実するとともに、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現し、全ての子どもたちの可能性を引き出すための基本的ツールとなるよう、引き続き活用を推進してまいります。 また、デジタル教科書やGoogle Workspaceなどをタブレットで活用することにより、より深い学びや話し合い学び合いを促進し、子どもたちにとって最適な学習環境が実現するよう努めてまいります。				
事業内容	1 ICT 教育推進委員会の活性化 2 デジタル教科書の利用環境整備 3 Google Workspace の利用環境整備 4 ICT 教育講師招聘による研修会の実施				
事業成果	1 タブレット端末の授業や家庭学習、校務における日常的な利活用について、情報提供や指導助言を行った。また、ICT 教育推進委員会において Google Workspace の校務や授業への利活用に関する情報共有や、町で統一すべき事項の検討を行った。 2 教師用デジタル教科書の利用可能学年や教科の範囲を拡大するとともに、閲覧サービスと学習 e ポータルとを連携させてサインインの手間を簡略化するなど、タブレットから利用しやすい環境を構築することができた。 3 Google Workspace については第一段階として校務における利用を進め、習熟が図られた時点で第二段階として授業での利活用につなげた。クラウドによる校務データの整理や共有は、校務における利便性を大幅に向上させ、勤務時間の縮減にもつながっている。また、クラウドによる共同編集や情報共有は、授業における深い学びや話し合い学び合いを大きく促進している。 4 ICT 教育推進委員会から「ICT 教育アドバイザー」を 1 名選出し、アドバイザー訪問に合わせて各校のタブレット端末の活用状況を確認し、効果的な利活用の在り方について指導助言を行った。また、ICT 教育アドバイザーが講師となって研修会を実施し、より使いやすいアプリや実践的な端末の使い方について研鑽を積むことができた。				
課題	1stGIGA から 6 年が経過し、現行端末は容量不足により OS のバージョンアップができない端末が増え、不具合やセキュリティ上の危険性が生じている。現在は Google Workspace の導入によりクラウド利用が可能となり、端末容量に依存せず校務や学習への利活用が可能となっているが、ローカルアプリのインストールに制限がある状態は変わらない。2ndGIGA による機器整備が喫緊の課題となっている。 また、生成 AI の飛躍的な進歩を背景として、校務や授業への AI 活用の在り方やルール整備についても急務となっている。				
改善方策	2ndGIGA の機器整備を進めるにあたっては、ICT 教育推進委員会との連携を図りながら、学校が利活用しやすい機器整備を進めていく。さらに、ICT 教育推進委員会で各学校における Google Workspace の活用状況等、ICT 教育に関する課題や効果的な				

改善 方 策	指導方法、校務 DX についての検証及び情報共有を行うことで教育 DX を推進し、教員間・学校間の利活用状況の差をなくしていく。 学習 e ポータルからアクセス可能な MEXCBT やデジタル教科書等、各種コンテンツについては、より一層活用が広がるよう周知していく。 クラウドや AI 利用時におけるセキュリティ強化、各学校における情報リテラシーの育成や情報モラル教育の充実に関しては、町の情報セキュリティポリシーとの整合を図りつつ、教育情報セキュリティポリシーを策定し、クラウドや AI 利用時におけるセキュリティ強化を図る。また、ICT 研修会の実施により、各学校における情報リテラシーの育成や情報モラル教育の充実を図る。
--------------	--

No.	4	事業名	学校運営事業（安全・安心な学校づくり）	担当課	教育総務課
-----	---	-----	---------------------	-----	-------

執行 方 針	感染症やさまざまな理由により、児童生徒が通常のエデュケーション活動を行えなくなった場合でも、オンライン授業やタブレットの持ち帰りを行い、子どもたちの学びを確実に保障し学びを止めない対策を行ってまいります。 暑さ対策については上湧別学園が開校することにより、町内全ての学校にエアコンが設置されますので、安全安心な教育環境のもと子どもたちの健康を守る体制を整備してまいります。 登下校の安全確保については、「湧別町通学路交通安全プログラム」に基づき、危険箇所の早期発見、点検を実施するとともに、自転車通学者にはヘルメット着用を義務付けるなど、児童生徒の交通安全に努めてまいります。
事業 内 容	1 感染症対策に係る各種取組み 2 避難所に指定された学校体育館への空調設備の設置 3 通学路交通安全プログラムの見直し
事業 成 果	1 感染症対策として、感染症対策用としての消耗品の整備を行った。 2 学校体育館への空調設備の設置に向け、設計業務を実施した。 3 通学路の安全についてプログラムの対策必要箇所及び対策を検討し、その結果をまとめた。
課 題	1 感染症対策については、継続した取組が必要となるため、今後も必要に応じ学校の要望等を確認の上、感染症対策用の消耗品や備品を整備する必要がある。 2 国費を活用しての整備となる。情報収集や要望を行い、できる限り早期に整備を完了する必要がある。 3 児童生徒の登下校における交通安全を確保することから、引き続き通学路の安全点検や必要な対策について協議していく必要がある。
改善 方 策	1 感染症対策については、今後においても継続した取組が必要となるため、学校の要望等を確認の上、感染症対策用消耗品等について整備を継続する。 2 早期の整備完了に向け、計画的に情報収集や要望を行う。 3 教育委員会事務局、各学校、地域関係者との連携及び情報の共有により、通学路の危険箇所の点検を継続する。各学校での交通安全教育を継続する。

No.	5	事業名	学校運営事業（豊かな心と健やかな体の育成）	担当課	教育総務課
執行方針	子どもたちが互いの良さを認め、話し合い聞き合うことにより他者の意見や立場を理解し認め、社会の一員として心豊かに成長できるよう、指導の充実を図ってまいります。 いじめについては、決して許されない行為であるとともに、どの児童生徒にも起こりうるものであることを十分認識し、児童・生徒、保護者及び教職員に対し定期的なアンケート調査を行うなど、積極的認知に努め、早期発見と素早い対応を行うことで、児童生徒を見守り、健やかな成長を促すため、家庭や関係機関と連携して取り組んでまいります。 不登校については、日頃より児童生徒を注意深く見守りながら教育相談の体制を強化し、家庭や関係機関と連携を図り早期解決に努めてまいります。また、子ども一人ひとりが、「学校に行きたい」「みんなと過ごしたい」と思えるような、より良い集団を作るため、教職員による「居場所づくり」と、教職員、子どもによる「絆づくり」に努め、安心して学校生活が送れるよう努めてまいります。				
事業内容	1 学校の教育課程を通じた道徳教育の推進 (1) 各学校における道徳教育の推進 (2) 各教科・特別活動・総合的な学習等を通じた道徳教育の指導 2 全国体力・運動能力調査における取組 3 各学校で策定された学校いじめ防止基本方針に基づいた、いじめ等の問題行動の未然防止、早期発見、早期解消 4 教育アドバイザーによる指導助言や相談支援体制の強化・充実				
事業成果	1 学校の教育課程を通じた道徳教育の推進 (1) 道徳の時間において、発達段階に応じた基本的な生活習慣、互いに協力し合う態度や集団における役割と責任等について指導した。 (2) 保護者や地域住民の協力により、特別活動等の指導において道徳性を養った。 2 全国体力・運動能力調査における調査結果 体力の向上や課題の検証を図ること等を目的に、全義務教育学校の5年生と8年生を対象に調査を行った。 全8種目中、5年生男子は5種目で、女子は4種目で全国平均を上回った。また、8年生男子は5種目で、女子では6種目で全国平均を上回る結果となった。 3 各学校で策定された学校いじめ防止基本方針に基づき、各学校において定期的にアンケート調査等を実施し、いじめの把握に努め、早期発見、早期解消が図られた。 4 教育アドバイザーによる指導助言や相談支援体制の強化・充実 教育アドバイザーによる学校現場への指導助言や児童生徒、保護者との相談支援体制の強化・充実が図られた。				

課題	道徳教育は、児童生徒が人間としての在り方を自覚し、人生をより良く生きるために、その基盤となる道徳性を育成するものであることから、教育活動全体を通じた指導を継続する必要がある。 全国体力・運動能力調査の結果、前期課程及び後期課程とも、多くの種目で全国平均を上回る結果となった。一定の成果が出ている学校では、この結果を継続させていくことが必要である。 いじめは、人として絶対に許されないという認識のもと、児童生徒がいじめ等の問題行動を行わないよう継続した取組が必要である。 スマートフォン、携帯電話、パソコン・ゲーム機等を利用したインターネットによるいじめが全国的な問題となっているため、学校における児童生徒の利用実態を把握するとともに、インターネット利用の指導や、保護者への啓発を継続する必要がある。 不登校については、目先の登校だけにとらわれず、児童生徒の将来に向けた自立を支援することを基本に、学びが途切れることのないよう学びの場を保障することが必要である。また、新たな不登校を生まないために、学校が児童生徒にとって安心・安全な場所となるよう学習指導・生徒指導の充実を図る必要がある。
改善 方 策	各学校における教育活動や特別の教科「道徳」等を活用しながら、道徳教育を充実させる取組を継続する。 いじめは人として絶対に許されない人権侵害であることを認識し、児童生徒が主体的にいじめについて考え、行動することができるよう指導を継続する。 いじめ等の問題行動の未然防止、早期発見、早期解消を図るため、いじめアンケート調査等による取組を継続する。 児童生徒によるインターネットの利用について指導するとともに、教職員や保護者に対し研修機会の充実を図る。 不登校については、「学び合いのある学び」の取組によって互いを尊重し学び合う集団をつくり、教室が子供同士の絆を深め、居心地の良い居場所となるような授業づくりを中心に進めるとともに、北海道教育委員会と連携した「メタバース de 居場所」等により、不登校児童生徒の学びの場を保障する取組を進める。

No.	6	事業名	学校運営事業（特別支援教育）	担当課	教育総務課
執行方針	インクルーシブ教育の理念を基に、支援を必要とする児童生徒個々に応じた支援を行うため、本年度は通級指導教室を上湧別学園にも設置し、ゆうべつ学園と上湧別学園の2校で開設するとともに、芭露学園についてはゆうべつ学園から教員が巡回して通級指導を実施してまいります。 また、特別支援教育支援員を増員し、児童が安全で安心して学校生活を送れるよう環境を整えるとともに、手厚く細やかな支援を行ってまいります。				
事業内容	1 通級指導教室の実施 2 特別支援学級の設置 3 特別支援教育支援員の配置 4 校種間、こども園及び保育所と連携した推進体制の充実				
事業成果	1 通級指導教室の実施 通級指導教室実施校であるゆうべつ学園に通級指導教員3名、上湧別学園に1名を加配措置し、自校・他校含め令和7年度末時点では3校で50名の児童・生徒に対し指導を行い、ことばの指導や学習・生活面における困り感の解消を図った。 2 特別支援学級の設置 関係機関と連携し、就学前児童の就学相談や学校見学を適宜実施するとともに、事後のカンファレンスにより児童の支援に関する情報を学校と共有した。教育支援委員会の開催により支援が必要な児童生徒を適切に把握し、支援が必要な児童生徒が在籍する学校に特別支援学級を設置した。 3 特別支援教育支援員の配置 町内3校に9人の特別支援教育支援員を配置し、支援が必要な児童に対し支援を行った。 4 校種間、こども園及び保育所と連携した推進体制の充実 (1) 各学校で支援委員会等を開催し、特別な支援が必要な児童生徒について把握するとともに、支援内容等を検討し、教職員の共通理解のもと、特別支援教育を推進した。 (2) こども園・保育所・義務教育学校による「園・保・義務教育学校交流会議」を開催し、就学前幼児及び就学直後の子どもたちのより良い成長、発達のために関係機関との連携を深めた。 (3) 就学時には、保育所及びこども園と就学する義務教育学校間において就学する児童生徒に関する引継ぎを行い、校種間の連携による適切な支援を行った。 (4) 北海道教育委員会が実施する特別支援教育パートナー・ティーチャー派遣事業について2校の義務教育学校が活用し、各学校の特別支援教育コーディネーターや担任教員等が北海道立特別支援学校教員の助言等により、支援が必要な児童生徒に対する指導及び支援の充実が図られた。				
課題	支援が必要な児童を就学前に把握し、児童の状況に対応した早期の支援を行うため、関係機関が連携して適切な就学指導を行う必要がある。				

課題	支援が必要な児童生徒に対し、特別支援学級への在籍や特別支援教育支援員を配置するほか、保護者への教育相談を充実する取組を継続する必要がある。 関係機関との連携による支援体制の整備に努め、支援が必要な児童生徒の教育的ニーズに応じた指導・支援が必要である。
改善方策	関係機関と連携し、支援が必要な児童生徒の早期把握に努め適切な就学指導を行うとともに、必要とする学校に対しては特別支援教育支援員の配置を継続する。 学校と教育委員会事務局との情報共有、保護者への教育相談の充実に努める。 校種間、こども園及び保育所、福祉関係事業所等と連携し特別支援教育支援体制の充実に努める。

No.	7	事業名	中高一貫教育推進事業	担当課	教育総務課
執行方針	「地域の子は地域で育てる」の理念のもと、生徒たちが6年間を通して生き生きと学ぶためにこれまでも中高一貫教育を推進してまいりました。 しかし、教育環境の変化や湧別高校への進学率の低迷などにより、昨年度より連携の柱を「主体的・対話的な教科学習」「地域と連携した探求的活動」に改めて、深い学びや地域参画力を養い、問題解決能力を身に付けるための取組を行っております。本年度は、町内全ての学校が義務教育学校となりますが、この取組を継続し、新たな義務教育学校と高等学校との一貫教育を推進してまいります。				
事業内容	1 湧別町教育委員会、北海道湧別高等学校、上湧別学園、ゆうべつ学園、芭露学園による一貫教育の実施 (1) 教育課程・学習指導 (2) 特別活動・生徒指導 (3) 探究的活動 2 中高一貫教育推進会議運営費の補助 3 中高一貫教育の検証と今後に向けた検討				
事業成果	1 湧別町教育委員会、北海道湧別高等学校、上湧別学園、ゆうべつ学園、芭露学園による一貫教育の実施 (1) 教育課程・学習指導部会 基礎学力テストに代わる取組として、「つなぎ学習」を実施した。連携入試合格者に対し事前問題集を郵送し、Z o o mにより遠隔指導を行った。各教科で中高の教員による授業交流を行い、指導内容や方法について相互理解を深めた。 (2) 特別活動・生徒指導部会 吹奏楽クリニック及び運動部クリニックを開催し、基礎力向上を目指しながら中高生の部活動における交流を図ることができた。 合同講演会は、株式会社 ZENSHIN CONECT 代表取締役の杉谷拳士氏を講師として開催することができた。 (3) 総探部会 探究的活動の教員間での情報交換や実践研究のもと、各地域の実態に応じた探求学習を推進した。「目指す生徒の身につけるべき資質・能力」を検討・作成した。各校の探求的活動レポートを作成し交流できた。 2 中高一貫教育推進会議運営費の補助 中・高の連携による教育活動に要する費用を助成し、資格の取得や講習会、講演会等の開催を推進した。 3 連携の柱をキャリア教育から「主体的・対話的な教科学習」と「地域と連携した探究的活動」に見直しを行って以降、各校ではこれまでのキャリア教育の取組を一部継続しつつ、新体制での実践を発展させて推進することができた。				
課題	基礎基本の定着を図るため「つなぎ学習」の実施を継続する必要がある。 新たな柱を基に事業を進めているが、これまで中高一貫の柱として進めてきたキャリア教育の連携を整理し、総探部会の活動を深めていく必要がある。 学校教育推進協議会との関わりについて、さらに検討・協議が必要である。				

改善方策	多くの場面において、中高生と一緒に活動できる場を増やし、交流を深めていく。引き続き、乗り入れ授業やつなぎ学習を実施し、学力の向上を目指す。 事務局会議、各部会会議を継続して開催し、新たな柱を基にした事業実施の協議を行う。
------	--

No.	8	事業名	北海道湧別高等学校存続対策事業	担当課	教育総務課
-----	---	-----	-----------------	-----	-------

執行方針	湧別高校の魅力化と入学者数の増加を図るため、「北海道湧別高等学校存続対策事業」を継続して実施してまいります。湧別高校で取り組んでおります探究活動「未来計画」や生徒会活動をはじめ、学力向上推進事業への支援を継続して行なってまいります。また、本年度は新たに生徒の全国募集事業「みらい留学」へ体験入学する参加者への交通費の支援を行ってまいります。
事業内容	1 各種補助事業 (1) 教科書等購入費補助事業 (2) 学力向上推進費補助事業 (3) 海外交流派遣費用補助事業 (4) 部活動振興費補助事業 (5) 部活動クリニック補助事業 (6) 部活動合宿遠征費補助事業 (7) 学校体育文化活動費補助事業 (8) 通学費補助事業 (9) 生徒会等事業補助事業 (10) 部活動交通費補助事業 (11) 生徒募集事業補助事業 (12) 体験入学参加交通費等補助事業 (13) 地域みらい留学生交通費等補助事業
事業成果	1 湧別高校の魅力のひとつとして町からの補助金は重要であり、保護者の負担軽減や学力向上、部活動の推進、また魅力的な事業を実施するため、引き続き支援を行っていくことは効果があると考えます。 (1) 教科書等購入費補助事業 在籍する生徒の保護者に対し、学校が指定する教科書及び副教材の購入費用を補助した（生徒98名）。 (2) 学力向上推進費補助事業 父母と教師の会が、在籍する生徒の学力向上のために学校が指定する模擬試験受験費用及び学力向上用教材購入助成に要した費用を補助した（模擬試験受験者延べ107名、学力向上教材：スタディサプリ98名・進路マップ延べ126名、タブレット端末購入費iPad13台）。 (3) 海外交流派遣費用補助事業 在籍する生徒が参加する海外交流派遣事業の費用を補助した（ニュージーランド相互交流派遣1名）。 (4) 部活動振興費補助事業 体育文化後援会が、部活動の活動環境を整備するために用具等の購入費を助

事業成果	成した費用を補助した。(ラグビー部) (5) 部活動クリニック費補助事業 体育文化後援会が、部活動の資質向上のために部活動クリニック実施に要する費用を助成した。(吹奏楽局4回実施)。 (6) 部活動合宿遠征費補助事業 体育文化後援会が、部活動の資質向上を図るため、北海道内(オホーツク管内を除く。)の高等学校との対外試合等を行うための合宿遠征に要する費用を補助した。(ラグビー部、吹奏楽局、バレー部) (7) 学校体育文化活動費補助事業 体育文化後援会が、湧別高校を代表する団体及び個人が参加する全道的な規模以上で開催される競技会等の参加費用を助成する場合の当該費用を補助した(ラグビー部～全道3回・全国1回、吹奏楽局～全道2回・全国1回)。 (8) 通学費補助事業 営業バス又はJRを利用して片道4kmを超えて通学する生徒の保護者に対して、通学のために購入した定期券、回数券、ICカード購入費用を補助した(延べ生徒272名)。 (9) 生徒会等事業補助事業 生徒会又はPTAが実施する湧別高校の魅力向上に繋がる活動に補助した。(北大祭参加、湧虹祭模擬店チケット、行灯作成、未来計画) (10) 部活動交通費補助事業 体育文化後援会が、全道的な規模未満で開催される競技会等に参加する部活動の交通手段として貸切りバス等を利用する費用を助成する場合の当該費用を補助した。(吹奏楽部) (11) 生徒募集事業補助事業 生徒会又はPTAが実施する生徒募集に関する活動に係る費用を補助した。(学校案内・生徒募集用ポスター、中学校体験入学記念品、地域みらい留学) (12) 体験入学参加交通費等補助事業 道外又は管外から湧別高校が行う体験入学会へ参加した際の交通費等を補助した(参加者19組)。 (13) 地域みらい留学生交通費等補助事業 道外又は管外から湧別高校に入学し、町内で生活している生徒で、入学時、帰省時及び卒業時に係る交通費等を補助することとしているが、当年度においては該当生徒がいなかったため、実績なし。
課題	地域の高校の存続対策の推進を図るため、保護者の負担軽減及び湧別高校の魅力ある学校づくりに繋がる効果的な支援策を継続する必要がある。 数多くの事業や補助、成果、または湧別高校の魅力を中学生及びその保護者や地域住民へ継続して周知することが必要である。
改善方策	継続して支援を行う。 町内外の中学生に対して、継続的に事業・補助内容の周知を図る。 魅力的な学校づくりのための補助を行う。

No.	9	事業名	国際理解教育事業	担当課	教育総務課
執行方針	全ての学校において外国語指導助手の派遣回数を増やし、生きた英語や異文化を学ぶ授業を支援するほか、引き続き「英検チャレンジ事業」を実施して英語検定資格の取得を目指してまいります。 国際交流活動については、友好都市であるカナダ・ホワイートコート町及びニュージーランド・セルウィン町との交換留学事業を継続して行い、相互交流事業については、ニュージーランドへの派遣を実施いたします。また本年度は、7年ぶりにカナダ・ホワイートコート町から生徒とその保護者からなる訪問団が来町する予定であります。中高生はもちろんのこと多くの町民の方々が異文化に触れ、交流ができる事業や歓迎夕食会などを催し、両町のさらなる友好交流の発展に努めてまいります。				
事業内容	1 英検チャレンジ事業 2 交換留学事業 3 相互交流事業 4 外国語指導助手招聘事業 5 小学生英会話事業				
事業成果	1 英検チャレンジ事業 町内すべての義務教育学校の1～6年生の希望する児童を対象に英検及び英検Jr.を受検した。 【英検】※延べ人数 上湧別学園：28人（3級、4級、5級） ゆうべつ学園：3人（4級、5級） 【英検ジュニア】 上湧別学園：148人（GOLD23人、SILVER44人、BRONZE81人） ゆうべつ学園：40人（GOLD19人、SILVER19人、BRONZE2人） 芭露学園：7人（SILVER3人、BRONZE4人） 2 相互交流事業 派遣事業を実施し、ニュージーランドに中高生5名、引率者2名を派遣した。事前・事後研修も含め、この派遣事業を通じて参加者の国際理解が深まった。 また、カナダ・ホワイートコート町から訪問団8名を受け入れ、町内外の視察や歓迎夕食会を開催した。 3 外国語指導助手招聘事業 自治体国際化協会を通じカナダからのALT2名、ダーフィールドハイスクールを通じプライベートのALT1名を任用し、町内全ての義務教育学校、湧別高等学校及び児童センターへ派遣した。 4 小学生英会話事業 義務教育学校前期課程児童を対象とした英会話事業を開催した。ゲームをしたり外国に見立てたブースを訪問したりすることにより、英語でのやりとりや異文化に触れる機会を提供し、楽しんで英語を学んでもらうことができた。また、高学年を対象とした事業を新たに実施することができた。				

課題	1 英検チャレンジ事業 各学校において、一人でも多くの児童に英語に対する興味を持ってもらい、英検や英検ジュニアの受検児童の増に繋がると共に、検定に向けた練習問題の実施等、受検対策等の実施が必要である。 2 交換留学事業 例年派遣希望者が少ないため、ホームステイの受け入れを確保するのが難しい。 3 相互交流事業 留学や派遣事業の参加者や受入れ家庭への国際理解を推進する効果は高いが、その成果や国際理解の必要性を町民に周知し続ける必要がある。参加しやすい日程調整、経費の高騰により内容の見直しが必要である。 4 外国語指導助手招聘事業 外国語指導助手の活用の仕方、学校教員との連携を深めるため、打ち合わせの時間を確保する必要がある。各学校との綿密な派遣日程調整が必要。 5 小学生英会話事業 より多くの児童が参加できるよう日程を調整する必要がある。湧別高校生の参加が少ないので、事業を周知し協力してもらえる体制を整える。高学年対象の事業を開催したが、参加者が少ないため興味が持てる事業の創設が必要。
改善方策	英検チャレンジ事業については、受検方法や検定費用の補助について、十分に周知を行う。試験対策は、夏・冬休みに実施する「まなびいタイム」を活用しALTによる特別講習を行う等の取組を実施する。また、ALTや各学校の外国語担当教員と連携を図ることで、英語に興味を持つ児童を一人でも増やすとともに、受検（合格）者の確保に繋げていくこととする。 交換留学事業・相互交流事業については、参加者の体験等を広報紙・町ホームページに掲載するほか、各学校へ派遣活動をまとめたポスターの配布、各学校での報告会の開催等を依頼するなど、広報を続ける。また、相互交流事業参加者の報告会を一般公開しているが、より多くの町民の方に派遣の様子を見てもらえるよう周知を工夫する。 交換留学事業・相互交流事業の受け入れ家庭については、募集のポスターを公共施設に掲示したり、派遣事業参加者に協力を依頼するなどして確保に努める。また、生徒がいない家庭でも受け入れをしてもらえるように範囲を拡大していく。 外国語指導助手招聘事業については、各学校とも低学年からALTが入っての活動があることから、継続して同人数の招致が必要である。外国語指導助手の勤務状況の評価や各種研修への参加を推奨するなど、効果的な指導ができるようサポートを続ける。 小学生の英会話事業ではALTとの日程調整と内容についての打合せを早期に行い、引き続き開催するように努めるとともに、湧別高校との打合せにより、高校生サポーターの確保に努める。

No.	10	事業名	学校給食センター運営事業	担当課	教育総務課
-----	----	-----	--------------	-----	-------

執行方針	学校給食については、施設内の衛生管理を徹底し、地場産や北海道産の食材を優先的に使用した栄養バランスの優れた給食を提供してまいります。 また、食育については、食の大切さや食に関する正しい知識と食習慣を身に付けるための栄養教諭による指導を行ってまいります。 本年度の給食費については、賄材料費の高騰が続いておりますが、昨年同額に据え置きとし1食当たり前期課程247円、後期課程285円で提供してまいります。 施設整備については、厨房の床改修工事、空調設備改修工事を実施し、安定した給食の提供に努めてまいります。
事業内容	1 おいしくて栄養バランスのとれた給食作りの実施 2 地元産食材の活用 3 栄養教諭による食に関する指導 4 食物アレルギー等を有する児童生徒への対応 5 物価高騰に伴う子育て世帯への給食費負担軽減対策 6 計画的な施設の整備
事業成果	1 おいしくて栄養バランスのとれた給食作りの実施 学校給食センター運営委員会、学校給食担当者会議等で給食に対する意見を取り入れ、献立作成の参考とした。 残食調査を実施し、献立の作成や提供量の適正化を図った。 2 地元産食材の活用 地元産食材をできるだけ活用し、町内産のホタテや玉ねぎ、鹿肉を取り入れた献立を作成した。 地元生産者から寄贈された食材（ホタテ貝柱、玉葱、ホタテ稚貝）を活用した給食を提供した。 3 栄養教諭による食に関する指導 栄養教諭が義務教育学校を訪問し、食に関する学習・指導を実施した。 児童生徒が給食センターを見学し、栄養教諭の指導の下、地元食材や食育に関する学習の場を提供した。 4 食物アレルギー等を有する児童生徒への代替食等の対応 食物アレルギーを持つ児童生徒に対し、代替食の提供等を行った。 また、代替食の提供ができない場合については給食費の減額による対応を行った。 5 物価高騰に伴う子育て世帯への給食費負担軽減 食料品価格の高騰による子育て世帯の負担を軽減するため、給食費を昨年度と同額に据え置きとした。 6 計画的な施設の整備 厨房の床面化改修工事と空調設備工事を実施した。

課題	1 安全安心な給食提供の継続 2 物価高騰への対応 3 学校給食を教材とした学習の継続 4 地元食材や道産食材の活用 5 児童生徒のアレルギー対応 6 施設・設備の老朽化及び備品類の更新
改善方策	1 安全安心な給食の提供 (1) 調理場の衛生管理を徹底するため、調理器具の消毒や温度管理等の適正管理に努める。 (2) 委託業者を通じて調理員への研修を行い、衛生管理や異物混入事故などに対する意識の向上を図る。 2 物価高騰への対応 (1) 残食調査等を通じて、適正な分量の提供に努め食品ロスの低減を図り、賄材料費の低減に努める。 (2) 国の給食費無償化事業等に柔軟に対応し、保護者の負担軽減に努める。 3 学校給食を教材とした学習の継続 (1) 給食センターの見学などを通じ、食や給食に興味をもってもらう取組を継続する。 (2) 第3期湧別町食育推進計画に沿った学習を実践するため、栄養教諭による指導を継続する。 4 地元食材や道産食材の活用 (1) 安全な給食の提供を継続するため、地元産食材や道産食材の利用を促進する。 (2) 学校給食センター運営委員会などの意見も参考にし、新たな献立について検討する。 (3) 地元食材の活用を通じ、地域産業への理解を深める取組を継続する。 5 児童生徒のアレルギー対応 (1) 食物アレルギーを持つ児童生徒について、学校給食担当者会議などで情報の共有化を図り、誤食事故の発生を未然に防ぐ取組を継続する。 (2) 医師の診断に基づいた適切な代替食の提供を継続する。 6 施設・設備の老朽化及び備品類の更新 (1) 建設から25年以上が経過している事から躯体や設備等の点検を継続し、計画的な更新や改修を検討する。 (2) 食缶やコンテナ等の高額備品の更新について、計画的な更新を図る。

(2) 社会教育

No.	1	事業名	社会教育振興事業（家庭教育）	担当課	社会教育課
執行方針	家庭教育については、全ての教育の出発点であり、子どもの基本的な生活習慣や自立心の育成、心身の調和のとれた発達を図る上で重要な役割を担っております。 これまで、家庭教育についての学習機会の場として「家庭教育研修会」を開催しておりますが、近年では地域とのつながりや人間関係の希薄化により、子育ての悩みや不安を抱えたまま孤立してしまう家庭が少なくありません。 このため、子育て世代包括支援センターと連携を密にし、家庭教育や子育てに関する情報提供や気軽に相談できる体制づくりに努めるとともに、「家庭教育研修会」が学習機会の場としてだけでなく、保護者同士のネットワークが広がるような研修会になるよう努めてまいります。 また、親子で参加できる体験学習などの実施にも努めてまいります。				
事業内容	1 家庭教育研修会の開催 2 健康こども課との事業協力 3 家庭教育相談の実施 4 生涯学習振興奨励事業補助金の活用				
事業成果	1 家庭教育研修会の開催 ①月 日 令和7年11月30日（日） ②会 場 文化センター TOM ③内 容 義務教育学校の児童・生徒を持つ保護者を対象に、児童・生徒のスマホ利用について考える「メディアとの付き合い方」と「親子木工教室」の二本立ての研修会を実施した。 ICT 活用について考える機会とするとともに、子育てについて参加者相互の情報交流を行った。 ④講師等 「メディアとの付き合い方」 (有) イワイ 岩井 孝浩氏 「親子木工教室」 柴田建設(株) 柴田 裕次郎氏 ⑤参加者 27名（大人13名、子ども14名） 2 健康こども課との事業協力 教育アドバイザー、子育て世代包括支援センター等による連絡会議を行い、家庭教育支援と子育て支援の連携強化が図られた。 3 家庭教育相談の実施 学校と教育アドバイザーにより随時教育相談に対応した。 4 生涯学習振興奨励費補助金の活用 サークル等への活動支援 2件				
課題	・地域全体で家庭をゆるやかに支え合う家庭教育支援は、家庭の教育力を向上させるだけでなく、引きこもりや不登校、社会格差、虐待などの複雑かつ深刻化する問題を未然に防ぐ効果があり、この取組の重要性を広く啓発する必要がある。 ・集団で活動する機会が減少し、孤立しがちな子育て世代を支援するため、ボランティアを育成する必要がある。 ・集団で活動する機会が減少し、孤立しがちな子育て世代を支援するためには、地				

課題	域で活動できるボランティアを育成する必要がある。 ・しかしながら、現代社会において、地域コミュニティだけで教育力の向上を図るには限界もあるため、行政機関が連携し、地域の課題を的確に把握するとともに、適切な支援を提供する体制を構築する必要がある。
改善方策	・保護者を取り巻く環境の変化について理解を深め、家庭教育支援の重要性を認識するための研修事業を充実させる。 ・家庭教育への意識を高めるための学習活動を支援する。 ・母親サークルなどの育成と支援を充実させ、交流の機会を拡大する。 ・子育て世代包括支援センターや図書館などの関係機関との連携体制を構築し、連携を強化する。

No.	2	事業名	社会教育振興事業（青少年教育）	担当課	社会教育課
-----	---	-----	-----------------	-----	-------

執行方針	青少年教育については、次代を担う全ての子どもたちが心身ともに心豊かに成長することは、いつの時代においても変わることのない願いであります。 このため、小学生を対象に実施しております「児童宿泊研修会」や「リーダー研修会」などの自然体験や集団生活体験を通して健全な生活習慣を身に付ける機会を提供するとともに、青少年指導センターと連携し、「ミニバレーボール大会」や「フットベースボール交流会」など、子どもたちの全町的な交流機会の提供に努めてまいります。また、中高生リーダーの養成と活用にも努めてまいります。 さらに、友好都市である新篠津村との交流事業は、本年度は新篠津村を舞台に開催し、友好と交流の輪を広げてまいります。 青年団体協議会は、各種イベントへの参加協力など地域に根ざした活動を積極的に展開しておりますので、今後も自主性を尊重しながら活動の支援に努めてまいります。
事業内容	1 各種体験活動の実施 2 地域子ども会・青少年指導センターへの活動支援 3 町内義務教育学校前期課程、ジュニアリーダー養成や成人指導者の活用 4 青年団体協議会の育成・援助の実施
事業成果	1 各種体験活動の実施 各種団体との連携により体験事業を実施し、集団生活体験の場を提供した。 (1) 児童宿泊研修会 町内義務教育学校5年生を対象 49名参加 (2) 子ども会リーダー研修会（夏季・冬季） 義務教育学校4年生～6年生延41名、ジュニアリーダー延27名、高校大学生リーダー延3名、成人指導者延5名 (3) 湧別町・新篠津村友好都市交流事業 湧別町20名、新篠津村10名の児童及びジュニアリーダー11名が参加 (4) 新春交歓カルタ大会及び百人一首教室 延120名参加 年間10回実施 (5) 湧うゆう湧くわく体験塾 34名参加 年間11回実施

事業成果	2 地域子ども会・青少年指導センターへの活動支援 地域子ども会の活性化を図るべく、地域青少年指導センター（地域子ども会連合組織）の事務局運営を支援した。 3 義務教育学校4年生～6年生及びジュニアリーダー養成や成人指導者の活用 1の各種体験活動及び青少年指導センター主催事業を通じて、義務教育学校4年生～6年生リーダー研修、ジュニアリーダー研修事業を実施した。 湧うゆう湧くわく体験塾の活動にあたっては、町内の成人指導者を講師として活用し地域教育力の向上を図った。 4 青年団体協議会の育成・援助の実施 チューリップフェアや屯田七夕まつりにおいてイベントを開催するなど、少人数ながら、地域での活動を精力的に実施した。会員数15名。
課題	・近年、自然体験や対人的な体を使った遊びの機会が減少しているため、体験活動の提供やコミュニケーション能力を育てる取組が必要である。 ・地域への愛着と誇りを持ったリーダーを育成するため、義務教育学校前期課程から高校生、青年まで一貫した人材育成を進めることが重要である。
改善方策	・地域の特性を生かした体験活動を通じて、豊かな人間性を育む。 ・異世代・異年齢との交流を広げ、コミュニケーション能力と地域教育力を向上させる。 ・義務教育学校前期課程及びジュニアリーダー育成と、地域の成人指導者を活用する。 ・義務教育学校前期課程から青年まで一貫して活動できる事業を展開する。 ・青少年指導センターや児童センターなど関係機関と連携する。

No.	3	事業名	社会教育振興事業（成人教育）	担当課	社会教育課
執行方針	成人教育については、興味関心が多様化する世代であることから、幅広い学習ニーズに応える学習機会の提供と、学習意欲を喚起することが必要でありますので、成人期に求められるニーズや今日的課題に応じた学習機会の提供に努めてまいります。 町民有志により実行委員会を組織し開催しております「町民大学」については、貴重な学びの場を提供いただいておりますので、引き続きその活動支援に努めてまいります。 また、町民自ら企画実施する自主事業についても、生涯学習振興奨励事業補助金により町民の自主的・自発的な学習活動を支援してまいります。				
事業内容	1 湧別町民大学の開催支援 2 P T A団体への助成 3 ボランティア団体との連携 4 生涯学習振興奨励事業補助金の活用				
事業成果	1 湧別町民大学の開催支援 町民有志で構成する実行委員会により、各ジャンルの講師を招き、町民に対し今日的課題や地域課題等の解決に向けた学習機会を提供した。 5回開催、718名参加 2 P T A 団体への助成 団体の活動に助成することで、研修会への参加など学習活動が行われた。 3 ボランティア団体との連携 はまなすボランティアなど自主的な活動の支援を行った。 4 生涯学習振興奨励事業補助の活用 ゆうべつアウトドアクラブ YU-PAL に対し補助を行った。				
課題	・湧別町の歴史、産業、自然を学ぶ機会を提供する。 ・成人期や退職後の世代の多様なニーズに応える場を創出し、情報提供を行う。 ・世代間・異業種間交流を推進し、人材育成のため町他部局と連携を強化する。 ・学習支援のコーディネーターを育成する必要がある				
改善方策	・「町民大学」では人材育成や職域を巻き込む事業展開を奨励し、講師や参加者とのつながりを強化する。 ・幅広い学習ニーズに応じた機会提供や意欲喚起を図り、地域理解や自主活動支援を充実化する。 ・気軽に参加できる情報提供を行い、活動促進を支援する。				

No.	4	事業名	社会教育振興事業（高齢者教育）	担当課	社会教育課
執行方針	高齢者教育については、誰もが生涯を通じて学び、豊かな知識・技術・経験を生かせる学習活動の場として、「チューリップ生きがい大学」やアクティブシニアをターゲットにした「シニア短期大学事業」を提供し、高齢者の「生きがい」と「仲間づくり」につながる学びの場を支援してまいります。				
事業内容	1 チューリップ生きがい大学の開設 2 世代間交流事業の実施 3 アクティブシニア向け事業の実施 4 デジタル活用講座の実施				
事業成果	1 チューリップ生きがい大学の開設 110 名在籍 学習会・11 回開催 講演会、レクリエーション等の開催及び学生の主体的な取組としてのクラブ活動への支援により、高齢者の学習機会及び活動機会を提供した。 2 世代間交流事業の実施 実績なし 3 アクティブシニア向け（おおむね 60 歳以上）事業の実施 自分の興味のあるジャンルについて、3 ヶ月単位で学ぶ「学びすとカレッジ」を開催。4 講座・延 26 名 4 デジタル活用講座の実施 高齢者のスマートフォン所有率が高くなってきているため、スマートフォン教室を開催した。2 日間・9 名参加				
課題	・「高齢者教育」では、主体的な取組への継続的な支援が重要で、高齢者の知識や経験、技能を地域や次世代へ伝える機会を提供し、生きがいの創出を目指す。 ・家に閉じこもりがちな高齢者に対して、地域の身近な情報を提供し、少人数での参加しやすいグループ活動の場を創出する。 ・アクティブシニアに対して学習機会を確保し、活躍の場を積極的に提供することが必要である。				
改善方策	・高齢者の興味や関心を引き起こすための事業を新たに設立する。 ・高齢者学級の参加者による自主的な活動を促進し、さらにその充実を図る。 ・次世代に伝承するための異世代間交流事業を充実させる。 ・知識や知恵を持つ高齢者を把握し、それを活かすためのコーディネート体制を強化する。 ・少人数でも気軽に参加しやすい環境づくりに努める。 ・高齢者学級と他団体との連携を促進し、相互の協力を図る。				

No.	5	事業名	社会教育施設	担当課	社会教育課
執行方針	社会教育施設については、生涯学習活動の拠点として必要不可欠なものでありますので、町民が安全・安心かつ快適に各施設を利用できるよう、適切な維持管理に努めてまいります。 本年度は、文化センターTOMの外壁改修のほか、湧別プールの鉄骨塗装などを行います。				
事業内容	1 社会教育施設の整備充実				
事業成果	1 社会教育施設の整備充実 町民のニーズを踏まえ利用しやすい管理運営や定期的な保守点検・修繕等を通じて適正な維持管理を行った。 (1) 外壁改修工事（文化センターTOM） 経年劣化による外壁の剥落やひび割れ等が発生しており、年次計画で改修を行うことで、利用者の安全性が確保できた。 (2) 照明 LED 化工事（文化センターTOM、湧別武道館、中湧別屋内ゲートボール場） 水銀灯からより明るい LED 照明に更新したことにより、温室効果ガス排出量及び消費電力の節減とともに、利用者の利便性の向上が図られた。 (3) 建物塗装工事（湧別プール） プール天井の鉄骨が劣化しており、塗装工事を行うことで、利用者の安全性が確保できた。				
課題	・社会教育施設の適正な維持管理と計画的な整備の充実に取り組む必要がある。				
改善方策	・文化センターさざ波、及びTOMの特徴を活かし、効果的な活用に取り組む。 ・町民のニーズを踏まえつつ、社会教育施設の計画的な設備の更新や改修を進めるとともに、適切な管理運営を実施し、利用実態に即した運営を目指す。				

No.	6	事業名	スポーツ活動振興事業	担当課	社会教育課
執行方針	スポーツ活動は、誰もが心身ともに健康で充実した生活を送り、活力ある健全な社会を形成するために大きな役割を担っております。 このことから、本年度においても体育協会をはじめスポーツ少年団や自治会などと連携し、年齢層に応じたスポーツ教室や大会を開催し、生涯にわたってスポーツに親しむ機会の拡充に努めてまいります。 運動指導職員による運動・トレーニング教室については、町民ニーズを踏まえ指導回数を増やすとともに、定期的に運動指導・運動相談を行うことで町民の運動不足の解消と、福祉課と連携した運動教室の指導にも努めてまいります。 令和5年度に締結したレバンガ北海道との包括連携協定に基づき、本年度からスポーツ少年団、義務教育学校及び高校のバスケットボール部を対象にレバンガ北海道のアカデミーコーチを年間通して招へいし指導してもらうことで、選手のスキル向上とスポーツの楽しさを実感できる取組を進めてまいります。 「チャレンジデー」については、これまで運動・スポーツ、健康づくりの習慣化、きっかけづくりを目的に取り組んできましたが、多くの町民に参加していただけるよう内容の充実に努めてまいります。 スポーツ大会の開催や合宿を誘致することは、スポーツの普及や振興だけでなく交流人口の増加や経済効果など、地域の活性化につながることを期待されますので、本年度も「サロマ湖 100kmウルトラマラソン」や「上野カップ少年柔道大会」を開催するとともに、合宿の誘致にも取り組んでまいります。				
事業内容	1 大会の開催等 2 スポーツ教室・講習会の開催 3 スポーツ推進委員事業の開催 4 スポーツ団体活動の育成支援等 5 湧別町立学校施設の開放事業				
事業成果	1 大会の開催等 (1) 第50回自治会対抗町民 300 歳バレーボール大会（50回記念大会として実施） 6 チーム 90 名参加 中湧別総合体育館で実施。 (2) 第40回サロマ湖 100 k mウルトラマラソン（40回記念大会として実施） 100 k m の部 参加者 3,343 名、完走者 1,952 名、完走率 58.4% 50 k m の部 参加者 515 名、完走者 396 名、完走率 76.9% (3) 湧別町少年柔道大会「湧別町少年柔道大会 上野カップ 2025」 従来どおりの組織体制や運営体制の確保が困難となったため、中止とした。 (4) ゆうべつアクティブチャレンジ 2025 (公財) 笹川スポーツ財団主催である住民総参加型のスポーツイベント「アクティブチャレンジ」に参加し、町民の健康づくりや体力づくり、スポーツやレクリエーション活動への参加意欲の高揚と習慣化を推進することができた。 町内参加者数・延 6,562 名				

事業成果	2 スポーツ教室・講習会の開催 (1) 各種教室 夏の短期水泳初級教室、ジュニアスケート教室、ニュースポーツ de あそぼ「モルック大会」などを実施し、町民がスポーツに親しむ機会の提供と技術向上に資することができた。 (2) 運動・トレーニング指導 エクササイズとトレーニング機器を使ったトレーニングを行うことにより、定期的に運動する機会が増え、町民の健康維持増進が図られたとともに、トレーニングルームの利用者の増加に繋がった。 (3) 湧別町・レバンガ北海道スポーツ推進事業 ① レバンガ北海道アカデミーコーチを招聘し、ミニバスケットボール少年団、義務教育学校や湧別高校のバスケットボール部を対象に、バスケットボール教室を開催することで、団員及び部員の技能及びマナー向上を図ることができた。 ② 本町出身のレバンガ北海道・関野剛平選手が上湧別学園を訪問され、授業や給食をはじめ5・6年生との交流を深めることができた。 3 スポーツ推進委員事業の開催 スポーツ推進委員が研修を通じて資質向上を図り、町内小学1年生から3年生を対象に5月から翌年3月まで毎月1回開催している「チャレンジスポーツスクール」において、様々なスポーツを体験する機会を提供した。 4 スポーツ団体活動の育成支援等 ① スポーツ少年団、体育協会への運営費助成を行うことにより、町内における自主的なスポーツ活動の推進を支援した。 ② 体育協会主催の「五鹿山マラソン2025」では、町内外から76名が参加され、スケート協会主催の「第56回湧別町スケート大会」においては、未就学児から大人まで合計59名が参加され、町民の体力増進や健康づくりを高めるきっかけづくりを図ることができた。 ③ スポーツ・文化合宿誘致事業では、4団体の合宿が予定されていたが、日程調整がつかず、合気道木下道場（7名）を受け入れた。 ④ スポーツ・文化遠征費補助事業では、全道・全国大会に出場する団体や個人に対し、遠征費の一部を助成することにより町内のスポーツの振興を図ることができた。 5 湧別町立学校施設の開放事業 湧別町立学校施設の開放事業は、2団体・7日間の利用があった。
課題	・スポーツニーズが多様化する一方で、少子高齢化によるスポーツ団体の会員減少、子どもたちの体力低下やスポーツ離れ、さらに指導者不足といった課題の解消に向けた具体的な方策を検討する必要がある。 ・各年代に応じたスポーツ習慣の形成を目指し、誰もがいつでも気軽にスポーツに親しめる機会を提供する必要がある。 ・指導者の発掘・育成や、体育協会・スポーツ少年団などの関係団体を支援する体制の充実にも積極的に取り組む必要がある。

改善 方 策	・ライフステージに応じた教室や講習会、大会などを通じて、住民がスポーツに親しむ機会を提供し、健康増進や体力づくりの促進、さらには住民相互の交流の活性化に努める。 ・多様化するスポーツニーズに対応するため、新たなニュースポーツの普及を推進する。 ・体育協会やスポーツ少年団などの関係団体の育成を図るとともに、これら団体の自主的な活動を支援する体制づくりに努める。 ・町民のスポーツ活動を支える指導者の育成・養成に取り組み、指導体制の充実を図る。 ・技術向上のため、著名な外部講師の招聘を積極的に行う。 ・スポーツ推進委員との連携を強化し、町民のスポーツ活動や健康づくりの推進を図る。 ・運動指導職員による町民一人一人の体力に応じた運動プログラムの提供を進める。 ・体育協会、スポーツ少年団、自治会、関係団体との連携を深め、「町民全員が楽しめる生涯スポーツ」の推進を目指す。
--------------	--

No.	7	事業名	芸術文化活動振興事業	担当課	社会教育課
執行 方 針	町民が潤いと豊かさに満ちた人生を送るためにも、芸術文化が日常生活の中で身近な存在であることが大切です。 このため、子どもから大人まで幅広い年代に対して優れた芸術文化に触れる機会を提供するとともに、「良いもの見よう聞こう会」などの町民有志団体が企画する芸術鑑賞会に対して支援してまいります。 個人の文化活動については、各講座への参加の周知・啓発と文化連盟をはじめとする文化サークル活動に対して継続的に支援しながら、町民が芸術や文化に触れる機会を創出してまいります。 また、文化センターさざ波には、展示専用のギャラリーがありますので、創作活動の発表機会の場として多くの町民に活用してもらうPRにも努めてまいります。				
事業 内 容	1 文化団体活動の育成・支援 2 各世代のニーズに合った鑑賞機会の提供 3 学習の成果を活かす場としての発表機会の提供 4 体験事業及び文化活動に親しむ教室の開催				
事業 成 果	1 文化団体活動の育成・支援 文化連盟及び芸術鑑賞企画団体の事業費を補助し、自主的活動推進を支援した。 2 各世代のニーズに合った鑑賞機会の提供 幼児から一般向けの鑑賞機会の提供では、芸術鑑賞企画団体主催を含め、多様な事業を実施し、多くの町民が芸術文化に触れる機会を提供した。 3 学習の成果を活かす場としての発表機会の提供 文化連盟が実施する総合文化祭での展示発表、芸能発表を支援した。また、文化センターさざ波ギャラリー、及び文化センターTOMにおいて、文化連盟加盟				

事業成果	団体や町民個人等の作品展示を実施し、町民の主体的な文化活動を支援した。 4 体験事業及び文化活動に親しむ教室の開催 義務教育学校前期課程向けに2講座、一般向けに2講座を開催し、文化活動の体験機会を提供した。 心の糧となる芸術・文化活動は、一般はもとより、これからを担う青少年の創造的な能力を伸ばすためにも、大きな役割を果たすものとして充実していく必要がある。
課題	・鑑賞と創造が両輪となった芸術・文化活動を推進するため、住民が芸術文化にふれる機会を提供する必要がある。
改善方策	・町民のニーズを踏まえ、質の高い芸術文化作品を鑑賞する機会の提供に努める。 ・青少年が芸術文化に触れる機会を拡充させることに努める。 ・カルチャー教室、各種体験事業、ワークショップなどを実施し、住民が芸術・文化に親しむ機会の提供を推進する。 ・文化連盟をはじめ各種文化団体の活動を積極的に支援する。 ・芸術文化奨励事業補助制度などの活用促進に努める。 ・学習の成果を発揮する場として、町民ギャラリーや総合文化祭などを活用することに努める。 ・町民に対し、芸術・文化事業の情報提供を積極的に行う。 ・道や他市町村、北海道文化財団などの関係機関と連携を図る。 ・文化連盟や芸術鑑賞団体、各種文化団体と協力しながら、地域芸術文化の振興に努める。

No.	8	事業名	部活動地域移行事業	担当課	社会教育課
執行方針	「部活動の地域移行」については、令和6年度に実施した児童・生徒、保護者及び教員への意向調査の結果、7割が休日の地域移行には賛成しているものの、指導者などの人材確保や指導体制について問題意識が高い傾向にあります。 そのため、関係団体や地域人材との連携のもと、意向調査や種目ごとの実情を踏まえ、令和8年度より休日における部活動の地域移行に向けて、引き続き「湧別町部活動地域移行検討委員会」において検討を進めるとともに、教員の部活動指導を補完する部活動指導員の確保に努めてまいります。				
事業内容	1 部活動地域移行検討委員会の開催 2 部活動関係者との懇談会の実施 3 部活動地域展開検討委員会の設置				
事業成果	1 部活動地域移行検討委員会の開催 2 2回開催（令和7年11月5日、令和8年3月24日） (1) 部活動指導員の配置 アンケート調査の結果と部活部活動関係者との打ち合わせを踏まえ、学校部活動の地域連携を推進するため、休日は部活動指導員等が指導を行える仕組みを整備しました。				

事業成果	部活動指導員：２種目・６名 サポーター：２種目・その他・９名 (２) 地域クラブへの移行 野球部については、令和９年度の中体連などの大会終了を目途に、地域クラブへ移行することが確認されました。 ２ 学校部活動関係者との打ち合わせの開催 ５部活動 １１回開催 学校管理職、スポーツ・文化団体及び部活動サポーターとの話し合いの場を設け、お互いの活動の状況等について情報交換し、部活動地域移行の可能性や今後の学校部活動の方向性を探る機会を設けた。 ３ 部活動地域展開検討委員会の設置 国が令和８年度から１３年度までの６年間を「改革実行期間」と定めたことを受け、学校部活動の地域展開を推進するため、「部活動地域展開検討委員会」を設置し、継続して協議を行うこととした。
課題	・少子化の進行により、生徒数や教員数の減少が進む中で、学校単位でチームを組むことが難しい状況や、部活動の減少によって希望する部活動が選択できないケースが増えている。こうした課題に対応し、子どもたちが継続してスポーツや文化活動に親しめる機会を確保する必要がある。 ・これまで学校教員が担っていた部活動の指導を、地域のスポーツ・文化団体などが担うことで、部活動を地域の活動として位置づける取組が求められる。 ・教員と部活動指導員が指導方針などについて共通の認識を持つことで、指導体制をより円滑化させる必要がある。
改善方策	・スポーツ及び文化団体との連携を深め、部活動指導員の確保を図る。 ・教員、部活動指導員、そしてサポーターとの連携を強化するため、生徒の指導や活動方針に関する情報共有を積極的に行う。 ・野球部については、令和９年度の中体連終了後、地域クラブへの移行を予定している。 ・地域クラブ認定制度や教員の兼業兼職制度など、クラブ化を進めるための必要な仕組みづくりを推進する。 ・町内義務教育学校や関係団体との慎重な協議を行い、地域への移行が可能な部活動から順次クラブ化を進める。 ・クラブ化が困難な部活動については、引き続き教員と部活動指導員の連携体制を整え、適切な指導が行われるよう協議を進めていく。

No.	9	事業名	博物館・文化財保護活動	担当課	社会教育課
執行方針	ふるさと館 J R Y ・郷土館については、収蔵資料の整理を進め、適正な保存に努めてまいります。また、資料や遺跡を活用した学校教育との連携による博物館学習を継続し、子どもたちが歴史文化に触れる機会を提供してまいります。 文化財については、遺跡を保護し、次世代に伝えていく必要があります。 平成30年度より実施してきた北海道指定史跡「シブノツナイ竪穴住居跡」の調査は、現地での発掘作業が終了しましたので、総括報告書を作成いたします。内容については、調査検討委員会、文化庁などから意見を聞いて進めてまいります。				
事業内容	1 文化財保護の実施 (1) 埋蔵文化財の保護 (2) 自然関連文化財の保護 2 博物館資料の整理・保管・展示・収集の実施 3 博物館調査研究の実施 4 博物館教育の実施 (1) 研修・学校授業の実施 (2) 博物館講座の実施				
事業成果	1 文化財保護の実施 (1) 埋蔵文化財調査 道指定ながら詳細が不明である「川西シブノツナイ遺跡」の町主体の発掘調査をまとめた、総括調査報告書を作成発行した。 開発行為に伴う埋蔵文化財の保護活動として、開発事業者との事前協議等を実施した。 (2) 自然関連文化財の保護 アッケシソウ群落は経過観察として写真記録を実施した。 2 博物館資料収集・整理・保管・展示の実施 収蔵庫の管理と保管資料の状況確認、郷土史理解のために重要な資料の選別と整理、資料寄贈への対応等を行った。 ・川西シブノツナイ遺跡出土資料の整理を行った。 ・旧芭露小学校体育館の収蔵の準備作業を行った。 ・川西シブノツナイ遺跡調査速報展を実施した。 3 博物館調査研究の実施 ・新赴任教員用資料更新増補を行った。(遺跡のミカタ、湧別町の過去と現代) 4 博物館教育の実施 (1) 研修・学校事業の実施 町内学校の授業及び各種研修会に歴史学習の機会を提供した。 学芸員による出張授業を実施した。 (2) 遺跡調査報告会の実施 令和7年度 遺跡調査報告会 参加30名				

課題	埋蔵文化財では町内に所在が確認されている埋蔵地が57ヵ所あり、史跡・名勝・天然記念物では北海道指定のアクセシソウ群落がある。これらの文化財を次世代に確実に渡すための方策を立案・実行する必要がある。 郷土の歴史資料は、安定的な保管方法を確立する必要がある。また、それらの公開方法も検討する必要がある。 教育活動においては効果的な展示方法及び学習効果の高い普及活動を研究し実施する必要がある。
改善方策	1 文化財保護の実施 - 次世代へとつなぐために埋蔵文化財の保護環境の整備に努める。 - アクセシソウ群落の保護のため、塩生植物の経過観察に努める。 2 博物館資料収集・整理・保管・展示の実施 - 収蔵している石器、土器類の分類整理を進め、湧別地区の先史文化の調査研究を行う。 - 郷土館において、先史の展示の充実に努める。 - 収蔵資料の系統的分類整理を進め活用に備える。 - 資料の長期的、安定的保存のために保存環境を整える。 - 収蔵資料の安定的確保のために常設展示での収蔵展示を進める。 - 次世代を担う子どもたちに理解しやすい展示づくりを行う。 3 博物館調査研究の実施 - 埋蔵文化財保護活動を充実させるため、町内遺跡に関する調査研究を進める。 - 日常生活への応用が可能な資料に関する調査研究を進めて、展示・教育普及活動へ活用する。 - 学会や研修会への参加など、学芸員の専門性・教育力を高めるための機会を拡充する。 4 博物館教育の実施 - 文化財（埋蔵文化財・記念物）を知る機会提供に努める。 - 博物館学習の内容充実に努める。 - 出張学習の内容充実に努める。 - 広報を活用し、博物館活動の周知に努める。

No.	10	事業名	図書館活動振興事業	担当課	社会教育課
執行方針	図書館については、学習活動の重要な拠点であります。そのため、本の購入、展示、質問への対応などの図書館機能の充実に努めてまいります。 子どもの読書機会を増やすため、ブックスタート事業、学校図書支援、移動図書館車運行、さらには各ボランティアとの協働による読み聞かせ会などの読書機会の提供を行い、読書普及活動の推進に努めてまいります。 また、図書館システムの安定的運用のため、機材とシステムの更新を行います。				
事業内容	1 図書館資料の収集、整理、保存、利用者への読書案内、及び図書等の貸し出しの実施 2 各種事業の実施 3 各種機関、団体との連携、協力				
事業成果	1 図書館資料の収集、整理、保存及び図書等の貸し出しの実施 図書館資料の収集選定方針及び除籍基準により、蔵書管理を行い、町民の読書要求に応え、貸出や情報提供を実施した。 蔵書冊数 153,041冊（中湧別80,717冊、湧別72,324冊） 貸出冊数 43,344冊（図書42,761冊、視聴覚 583点） 2 各種事業の実施 ブックスタート関連事業、特別展示の開催や、郷土資料のデジタル化を行い読書に親しむ機会を提供した。マイナンバーカード連携を活用している。 3 各種機関、団体との連携、協力 学校図書館用図書の選定協力や、蔵書管理を補助し、児童生徒の読書推進活動を行った。読み聞かせ事業を湧別高校ボランティア部、りんごっこ共同して実施し、リーディング倶楽部たんぽぽの読み聞かせ活動を支援した。				
課題	あらためて読書の重要性が見直され、読書活動を支える社会基盤として「図書館が果たす役割」が重視されている。				
改善方策	町民の読書傾向をふまえ、中湧別図書館と湧別図書館を特徴付けた選書を行い、新鮮な図書の購入を継続する。 中湧別・湧別2館それぞれが持つ特徴を活かした展示を行い、読書推進を図る。 デジタル環境を活かした読書環境を検討する。 郷土資料のデジタル化を行い、インターネットで公開する。 子どもの読書活動推進計画による、子どもたちの読書環境の整備を継続する。 適切な移動図書館車の運行を検討し読書環境の整備を図る。 図書館ボランティアとの連携・支援を継続する。				

4 事業実績表

(1) 令和7年度学校教育事業の実績表

事業名	事業内容等	実績等
教育委員会事務局事業	教育アドバイザーの配置 特別支援教育支援員の配置 中高一貫教育推進事業 湧別高校存続対策事業 教職員健康診断事業 学校運営協議会	教育アドバイザーを2人配置した。 特別支援教育支援員は、上湧別学園5人、ゆうべつ学園3人、芭露学園1人を配置した。 中高一貫教育については、湧別高校と3義務教育学校の連携による教育活動を推進し、中高一貫教育推進会議に運営費2,416千円を助成した。 湧別高校存続対策事業については、教科書等購入費補助事業1,344千円、学力向上推進費補助事業2,847千円、海外交流派遣費用補助事業555千円、部活動用具購入費補助事業512千円、部活動クリニック費補助事業120千円、部活動合宿遠征費補助事業814千円、学校体育文化活動費補助事業5,619千円、通学費補助事業7,539千円、生徒会補助事業641千円、部活動交通費補助事業30千円、生徒募集事業補助事業602千円、体験入学参加交通費等補助事業539千円を助成した。 教職員健康診断事業については、人間ドック受診者に係る費用を負担したほか、62名の教職員を対象に健康診断を実施した。 学校運営協議会は全ての学校に設置されており、計11回の会議を開催し、延べ77名の委員が出席した。
教職員住宅整備事業	住宅営繕の実施	教員住宅の維持管理を実施した。
外国語指導助手招へい事業	JETプログラムによりカナダから2名任用、プライベートでニュージーランドダーフィールドハイスクールを通じて1名任用し、通年3名体制で各学校へ派遣	各小・中・義務教育学校及び湧別高校へ外国語指導助手として派遣するほか、児童センターにも派遣した。
義務教育学校管理運営事業	学習サポート事業 ヘルメット購入補助事業 各種健診事業 通学費補助事業 教材等整備事業 パソコン整備事業 就学援助（要保護・準要保護、特別支援学級在籍児童） 学校体育文化活動費助成事業	長期休業中に湧高生を義務教育学校に派遣し、前期課程を対象とした学習サポート事業を実施した。前期課程延べ150名、高校生延べ46名が参加した。 ヘルメット購入費補助については、前期課程9件、後期課程12件の申請があった。 各種健診事業については、児童生徒に対し、尿検査、内科検診、歯科検診、耳鼻咽喉科検診、眼科検診、心臓検診、結核検診を実施した。 通学に係る支援状況については、町営（スクール）バスの無償利用の他、営業バス利用者への定期券購入費助成、芭露学園児童生徒について公用車による送迎を実施した。 教材用消耗品・学校用図書・学校用備品等を計画に基づき整備した。 パソコン整備事業では、各義務教育学校に校務・学校管理用パソコンを整備した。 就学援助では、前期課程は要保護児童1名、準要保護児童14名、特別支援学級在籍児童5名、後期課程は準要保護生徒15名、特別支援学級在籍生徒1名に対し就学費を援助した。 学校体育文化活動費助成については、学校教育活動に定める課外活動の大会参加に対し、前期課程3件4,851千円、後期課程11件3,459千円の助成を行った。

事業名	事業内容等	実績等
義務教育学校整備事業	学校施設体育館空調設備設置工事実施設計業務	町内義務教育学校体育館（3校）に空調設備を整備するため設計業務を行った。
国際理解教育事業	国際交流事業 小学生英会話事業	交換留学事業については、希望者がいなかった。 相互交流事業については、ニュージーランドに中高生5名、引率者2名を派遣した。派遣者に対して8回の事前研修及び2回の事後研修を行った。 カナダ・ホワイトコート町からの訪問団（学生5名、一般3名）を受け入れた。ホームステイをしながら、学校訪問、町内見学などを行い、交流を図った。 学校の長期休業期間中には、小学生英会話事業を開催し、17名が参加した。
学校給食センター事業	町内小・中・義務教育学校及び保育所等に給食を提供する。 栄養教諭による食の指導を行う。 食料品高騰に伴う負担軽減を行う。 計画的な施設整備を実施する。	計画どおり給食の提供を実施。 給食対象校等の数 6施設（義務教育学校3、保育所等3） 給食対象人員数 740人（義務教育学校522人、保育所等218人） 年間給食総数 152,848食（義務教育学校102,386食、保育所等50,462食） 栄養教諭が、義務教育学校3校に延べ13回訪問し、食に関する指導を実施しました。 また、義務教育学校1校から調理場見学を受け入れました。 食料品高騰に伴い給食費の見直しを実施したが、町独自の補助を実施する事により、前年度と同額で保護者より徴収し、子育て家庭の経済的負担を軽減しました。 施設改修工事として、床面改修工事14,300,000円、空調設備改修工事4,510,000円を実施しました。

(2) 令和7年度社会教育事業の実績表

令和7年度社会教育事業実績表

領域	事業名	期 日 場 所	計 画 内 容	予算額 実績額 (事業終了のみ)	実 績 (状 況) 等	中期計画 推進項目
基 盤 整 備	①生涯学習 情報の収 集・提供・ 相談体制の 充実	年 間 —	○情報収集と提供 ・生涯学習情報誌「通く通く」の発行(毎月) ・遠軽地区情報誌「なな・なんと情報」の発行(2カ月に1回) (佐呂間町が当番町) ・町ホームページによる情報の体系的整理と提供 ・動画による事業記録を収集し活用方法を模索 ○相談体制の充実 ・生涯学習に関する相談体制の整備に努める。	「通く通く」 印刷製本費 1,584千円 「通く通く」 印刷製本費 1,578千円	○情報収集と提供 ・生涯学習情報誌「通く通く」の毎月発行 ・遠軽地区情報誌「なな・なんと情報」の偶数月発行。 ・町ホームページによる事業PR(4月～3月) まちな話題(4月～3月) ・動画により一部事業を記録保存し、活用方法を模索している。 ○相談体制の充実 ・地域住民の学びと活動に関する相談に随時対応している。 ○インスタグラムによる事業周知(4月～3月)	10-1 10-3
	②指導者の 発掘・養 成・活用	年 間 —	主体的な学習と地域貢献との好循環をすすめるため、様々な分野から指導者を発掘養成し、その活用を図る。	—		
	③団体活動 の支援・育 成	年 間 —	団体リーダーの養成を図るとともに、団体活動が円滑に行われるよう支援を行う。	—		
	④生涯学習 振興奨励事 業	年 間 —	グループ・サークル等が主体的に行う講演会や鑑賞会などの学習活動に対して助成を行う。(補助率75%、ただし極めて公益性が高い場合は100%)	補助金 3件 300千円 補助金 3件 186千円	●6/1 自主映画&食育講座×こどもLABO 39名 こどもLABO: 50,000円 ●8/18 ～いいお母さんより幸せなお母さんに～ 16名 「広げよう子育てのわ」浅井智子講演会 ママの笑顔を支えるおかんズ: 100,000円 ●8/30～31 フラワーウォッチング2025～五鹿山の自然を知ろう～ 24名 ゆうべつアウトドアクラブYU-PAL: 36,000円	10-4
	⑤施設の整 備・運営・ 連携	年 間 —	公共施設再配置計画など上位計画との整合を図りながら、施設の計画的な補修や整備を行うとともに事業連携・施設間連携により学習効果の向上を図る。	別紙施設整備計画 のとおり	別紙社会教育施設整備計画に記載するとおり	10-2 10-5
家 庭 教 育	①家庭教育 研修会	11/30 (日) 文化センター TOM	家庭教育が困難な現状の共通理解と家庭教育の重要性を啓発するための研修会。講演後に参加者交流会を開催。健康こども課と連携し、ニーズの把握に努め定着を図る。PTA連合会に後援、家庭教育サポート企業に協賛依頼予定。開催場所や開催日時、方法について検討する。	講師謝礼 100千円 需用費8千円 講師謝礼 23千円	義務教育学校の児童・生徒を持つ保護者を対象とする。児童・生徒のスマホ利用について考える「メディアとの付き合い方」と「親子木工教室」の二本立ての研修会を実施。ICT活用について考える機会とするとともに、子育てについて参加者相互の情報交流を行った。 「メディアとの付き合い方」講師:岩井 孝浩氏(南イワイ) 「親子木工教室」講師:柴田 裕次郎氏(柴田建設㈱) 出席者 保護者13名 児童・生徒14名 計27名	1-1
	②健康こども 課との事 業協力	年 間 —	健康こども課との打合せ会議を開催し、子育て支援センター、子育て世代包括支援センターとの協力体制の充実を図る。	—	テーマの内容に伴い託児の必要に応じて打合せ会議を行う。	1-3 1-4
	③家庭教育 相談	年 間 相談室ほか	教育アドバイザーによる子育ての不安や悩みについて身近に相談する機会を提供するため、ホームページの充実を図る。	—	学校と教育AD間の連携により随時教育相談に対応している。	1-2
少 年 教 育	①児童宿泊 研修会	6/12(木) ～13(金) ネイバル 北見	社会性を培う機会として、全学団5年生合同で、体験活動を実施。担当教職員の事前打合せと反省会も行い、目的や役割分担の共通理解やノウハウの蓄積を図る。	参加費102千円 (4,000円×1/2 ×51人) 需用費15千円 バス借上料 150千円 参加費97千円 需用費23千円 バス借上料154千円	義務教育学校の5年生49名、教諭6名、教養2名が参加 各種体験活動を通して、社会性を培う機会を提供。 5/8、5/27担当者会議を開催。担当教諭の連携を密に、スムーズな運営に努めた。また次年度に活かすため7/24反省会議を実施。	2-1 2-4
	②子ども会 の育成・援 助	年 間 —	青少年指導センターの活動支援とあわせ、単位子ども会や湧別地区サポート協議会のあり方について指導助言する。	補助金 170千円 補助金 170千円	子ども会員(257名)＋育成者(保護者215名)合計472名(子ども会安全会加入者数より) 青少年指導センター事務局を教育委員会で支援(関連事業に掲載)	2-2

令和7年度社会教育事業実績表

領域	事業名	期 日 場 所	計 画 内 容	予算額 実績額 (事業終了分のみ)	実 績 (状 況) 等	中期計画 推進項目
少 年 教 育	③第1回子ども会リーダー研修会	7/26(土) ～27(日) 五鹿山公園	住民自治の基盤ともなる地域子ども会の主体的な活動が進むよう、子ども会のリーダーとしての役割や心構えを学び、そのために必要な知識や技術の習得をめざす。また、青少年指導員の養成と活躍の機会とする。	青少年指導センター会計から支出	義務教育学校5年生～6年生18名、ジュニアリーダー16名、高校リーダー1名、青少年指導員2名が参加。ジュニアリーダーを中心にプログラム(レクリエーション)を企画・運営・集団での生活を通してリーダー養成の研修や縦のつながりができた。	2-1 2-2 2-3
	④第2回子ども会リーダー研修会	R8.3/28(土) ～29(日) 紋別市生涯学習センター			義務教育学校4年生～6年生23名、ジュニアリーダー11名、高校大学生リーダー2名、青少年指導員3名が参加。ジュニアリーダーを中心にプログラム(レクリエーション)を企画・運営・集団での生活を通してリーダー養成の研修や縦のつながりができた。	
	⑤百人一首教室	11月～1月 毎週土曜日 農村センター	日本古来の伝統の競技を通して、ルールを守る大切さや礼儀作法を身につける機会とする。教室で継続指導することで、指導者と参加者の地域におけるつながりづくりも目指す。また、指導者の育成を図り実行委員会の活性化を促す。大会は実行委と教委との共催。義務教育学校(前期課程)～大人まで対象。	報償費24千円 需用費57千円	10月8日(水)実行委員会を実施。10月下旬より各義務教育学校を通じて参加募集し、毎週土曜日・13時から15時までとし実施(全9回) 11月: 15日、22日、29日 12月: 6日、13日、20日、27日 1月: 10日、17日	2-1 2-3
	⑥第54回新春交歓力ルタ大会	R8.1/18 (日) 農村センター		報償費10千円 需用費15千円	1月18日(日)上湧別農村環境改善センターにて開催。参加者: 18名(幼児: 2名、前期課程: 8名、後期課程: 3名、一般: 5名) 大会は教育委員会、百人一首教室実行委員会の共催により開催。幼児～後期課程の部4チーム、一般の部2チーム参加。	
	⑦湧く湧く体験塾	年間 (月1回程度) 町内ほか	各学園4～6年生を対象に体験の機会を提供し、知的探求心、地域への愛着とコミュニケーション能力を養成する。また、成人ボランティアの指導を仰ぐことで地域の教育力活用を図る。新規体験として一泊二日での防災キャンプを予定。	報償費35千円 需用費40千円 手数料1千円 報償費25千円 需用費42千円 手数料1千円	義務教育学校4～6年生34名在籍 【活動日】 4/19 入塾式 22名 5/10 体験学習・ボランティア 23名 6/21 昆虫教室 21名 7/ 5 川釣り・川遊び体験 23名 9/27～28 防災キャンプ 18名 10/11 北見工業大学おもしろ実験教室 24名 11/15 風・コマづくり 20名 12/20 クリスマスケーキ作り 33名 1/17 水下釣り 28名 2/28 流水探検隊 24名 3/14 開塾式 中止 協力: ゆうべつアウトドアクラブYU-PAL 湧別町観光協会、北海道電力、北海道開発局 遠軽地区広域組合消防署、 北見方面遠軽警察署、北見工業大学 NPO法人まるせつ昆虫同好会	2-1 2-2 2-4
	⑧湧別町・新篠津村友好都市青少年交流事業	8/6(水) ～8(金) 新篠津村 (派遣)	自然や産業体験活動など、児童の派遣と受入の交流を毎年交互に行うことで、お互いのまちの魅力を学ぶとともに交流の輪を広げる。各学園5～6年生およびリーダーとして各学園7～9年生・高校生も参加。各学園5～6年生は参加経費の半額、リーダー7～9年生は全額町負担。	報償費140千円 需用費10千円 報償費133千円	湧別町20名、新篠津村10名の小学校・義務教育学校及びジュニアリーダーのボランティア11名が参加。新篠津村にて仲間づくりレクリエーションや食事の調理などを通して交流を深めた。	2-1 2-2 2-4
青 年 教 育	①青年団体の育成・援助	年 間 青年会館ほか	子どもを対象とした事業、屯田七夕まつりでの出店などを行っている湧別町青年団体協議会を支援し、将来の地域のリーダー育成を図る。	補助金 160千円 補助金 160千円	4/22 総会を開催。(10名) 5/17 チューリップフェイイベント開催(13名) ※会員数 15名	3-1 3-2 3-3 3-4
	②令和8年20歳の集い	R8 1/11(日) 文化センター さざ波	20歳を迎えた若者を祝い励ますとともに、社会人としての意識高揚を図る。町主催、教委主管。 ※現学園6年生に「20歳の自分へ」の作文収集	報償費430千円 需用費83千円 報償費320千円 需用費78千円	参加者: 57名 式典終了後、成人者を中心とした交流会を実施。記念品として道産材を使用した「箸」を令和3年度(R4.1.9「20歳の集い」)から継続して贈呈。併せて、記念写真を出席者へ送付している。	3-1
成 人 教 育	①第49回湧別町民大学	9月～11月 全5回 文化センター TOM	有志実行委員会組織主催。各ジャンルの講師を招き、今日的課題や地域課題等の解決に向けた学習機会を提供する。団体とのコラボ企画や、勤労世代の参加促進にも努める。町PTA連合会との連携事業。	運営費助成 2,000千円 運営費助成 2,000千円	■実行委員会議 6/5、8/7、2/5開催 ■第1回 9/16 荻原 博子氏 125名 ■第2回 9/27 菅生 好身氏 92名 ■第3回 10/ 7 杉谷 拳士氏 270名 ■第4回 10/29 山本 命氏 121名 ■第5回 11/21 坪田 敏男氏 110名 合 計 718名	4-1 4-2 4-3 4-4

令和7年度社会教育事業実績表

領域	事業名	期 日 場 所	計 画 内 容	予算額 実績額 (事業終了分のみ)	実 績 (状 況) 等	中期計画 推進項目
成人教育	②PTA団体への援助	年 間 —	各学校のPTAやその連合組織である町PTA連合会の学習活動を支援する。	補助金 180千円 補助金 180千円	連合PTA事業運営費の補助を実施。	4-2 4-4
	③ボランティア団体との連携	年 間 文化センター さざ波ほか	はまなすボランティアなど自主的な奉仕活動を支援する。	—	はまなすボランティアサークルの自主研修の活動支援として研修会の引率を行い活動のサポートをすることができた。 ■研修日程 6/10 (火) 9:00~16:00 ■研修場所 上川町 大雪酒造株式会社 他	4-2 4-4
高齢者教育	①チューリップ生きがい大学の開設	年間 (月1回程度) 文化センター さざ波ほか	高齢者が充実した生活を送られるよう学習活動の機会を提供する。自主活動としてのクラブ活動も支援する。	報償費241千円 需用費36千円 印刷製本費72千円 借上料524千円 報償費142千円 印刷製本費72千円 借上料242千円	●学生110名在籍 クラブ数9(卓球クラブ新設) 【学習会】 4/22 開講式 64名 5/13 健康講座 モルック 35名 6/17 日帰り研修会 網走市 43名 7/17 町内講師講演 大規模災害にふれて 31名 8/5 上湧別学園視察 34名 9/1~2 宿泊研修 東川町・旭川市 26名 10/16 町外講師講演 養蜂家の仕事 36名 11/13 芸術鑑賞 懐かしのレコード鑑賞会 31名 12/4 クラブ活動発表会 62名 1/16 映画観賞会 31名 「あの花が咲く丘で君とまた出会えたら」 3/4 開講式・お楽しみ交流会 71名 文集「生きがい」第7号発行	5-1 5-2 5-3 5-4
	②世代間交流事業・社会活動参加奨励	年 間 学校ほか	学校からの求めに応じ、小・義務教育学校、中学校の総合的な学習への支援など高齢者の持つ豊かな知恵・技術を活用する場の提供に努めるとともに相互の交流を図る。	—		
	③アクティブシニア向け事業	年 間 文化センター さざ波ほか	自分に興味があるジャンルについて3カ月単位で学ぶ「短期大学事業」などを実施し、アクティブシニアの新たな学習の機会を提供する。チューリップ生きがい大学クラブの方々にも講師として携わっていただき、生きがい大学の繋がりが強化を図る。	報償費288千円 報償費56千円	○短期大学事業 ◆新聞紙創作(第1期) 第1期 4/16, 4/30, 5/14, 5/28, 6/11, 6/25 4名 ◆みんなで楽しむ合唱(第2期) 第2期 7/9, 8/6, 9/10 3名 ◆シニアスマホ講座(第3期) 第3期 10/23, 11/4, 11/18, 12/9, 12/23 10名 ◆お菓子作り講座(案)(第4期~) 第4期 1/21, 2/18, 3/18 9名	
	④いろいろ触ってみよう!スマホ教室	11/25(火) 26(水) 文化センター さざ波ほか	デジタル活用向上のためスマートフォン教室を開催する。 ①スマートフォンを安全に使うためのポイント ②デジタルリテラシーを身につけて安心・安全にインターネットを楽しもう	自治体負担なし 総務省「デジタル活用支援推進事業」	11月25日(火) 午前の部 文化センターさざ波 4名 午後の部 文化センターTOM 中止 11月26日(水) 午前の部 上湧別農村環境改善センター 5名 講師:桑原電送機 ドコモショップオホーツク店 八重樫 亜有子氏	
社会教育委員	①社会教育委員研修	随 時 管 内 道 内	研修を通じて委員としての資質向上を図り、地域における社会教育活動の充実に資する。 管内社会教育委員連絡協議会 北見市端野町 北海道市町村社会教育委員長等研修会 札幌市 遠軽・紋別地区社会教育委員研修会 遠軽町 北海道社会教育研究大会 今金町 管内社会教育振興セミナー 津別町 地域生涯学習実践活動交流セミナー 札幌市	社会教育委員 報酬320千円 費用弁償181千円 社会教育委員 報酬224千円 費用弁償147千円	・5/9(金)北見市端野町 オホーツク管内社会教育委員連絡協議会 (深谷委員長、事務局1名出席) ・7/7(月)~8(火)札幌市 北海道市町村社会教育委員長等研修会 (山本副委員長、事務局1名出席) ・10/4(土)遠軽町 遠軽地区社会教育委員等研修会 (毛利委員、米本委員、事務局1名出席) ・11/7(金)今金町 第64回北海道社会教育研究大会(樺山大会) (田淵委員、神尾委員、事務局2名出席) ・11/29(土)津別町 オホーツク管内社会教育振興セミナー (深谷委員長、杉原委員、菅原委員、事務局1名出席) ・2/26(木)~27(金)札幌市 地域生涯学習実践活動交流セミナー (菅原委員、事務局1名出席)	10-5

令和7年度社会教育事業実績表

領域	事業名	期 日	計 画 内 容	予算額	実 績 (状 況) 等	中期計画 推進項目
		場 所		実績額 (事業終了分のみ)		
芸 術	①文化団体の育成援助	年 間 —	芸術文化活動の振興を図るため文化連盟等の育成援助を行う。	補助金 350千円 補助金 300千円	加盟団体24団体を擁し、湧別町文化連盟として活動。総合文化祭などの文化活動を展開する。令和7年度においては、展示部門を10/4～5の2日間開催。芸能部門を10/19に開催。	6-2 6-4
	②鑑賞機会提供団体の育成援助	年 間 文化センター TOM・さざ波	良いもの見よう聞こう会等の活動支援	補助金 10,000千円 補助金 9,804千円	①良いもの見よう聞こう会 2公演 ②ゆうべつ活性化委員会 2公演	6-1 6-2 6-4
	③キッズアート鑑賞会	7/22(水) 10:00～ 文化センター さざ波	幼児対象 公演内容 めっきらもっきらとおんどん	公演料 500千円 公演料 495千円	劇団風の子～「めっきらもっきらとおんどん」 ■日時：7/22 10:00～ ■場所：文化センターさざ波多目的ホール ■観覧者数：児童 129名 保育士16名 一般観覧者0名 合計145名	6-1
文 化	④ジュニアアート鑑賞会	9/25(木) 10:00～ 文化センター さざ波	前期課程全学年対象 公演内容 ホラネロコンサート	公演料 500千円 495千円	ホラネロコンサート ■日時：9/25 10:00～ ■場所：文化センターさざ波大ホール ■観覧者数：児童 300名 教員40名 合計340名	6-1
	⑤ティーンズアート鑑賞会	9/11(木) 10:00～ 文化センター さざ波	後期課程全学年対象 公演内容 楽！らくごライブ	公演料 1,000千円 495千円	楽！らくごライブ ■日時：9/11 10:00～ ■場所：文化センターさざ波大ホール ■観覧者数：生徒 131名 教員29名 合計160名	
活 動	⑥文化芸術作品等の奨励	年 間 文化センター TOM・さざ波	湧別町文化連盟加盟団体や町民個人を中心に、絵画や写真などの展示を実施し、芸術文化活動の振興を図る。	—	(1)文化センターさざ波ギャラリー展示 ①5/12～25 折野勝「湧別の自然風景・地域の名所展」43名 ②6/24～7/6 亀岡トモ子・吉田妙子「二人展」224名 ③10/8～10/26 楽々絵手紙の会「絵手紙展」204名 ④11/20～11/30 アトリエ川西「絵画展」87名 ⑤12/13～21 伊藤英二「水彩画展」325名 ⑥12/23～1/18 上湧別学園アトリエカミュ「はじめまし展」134名 ⑦2/5～17 はすてる「2026作品展」61名 (2)文化センターTOMギャラリー展示 常設展示～写真、俳句、友好都市交流	6-2 6-3 6-4
の 振 興	⑦カルチャー教室	年 間 町内施設	子どもから大人までを対象に趣味や一般教養など町民のニーズに合った講座等の開催に努める。	講師謝礼 80千円 講師謝礼 50千円	①《子ども》夏休み子ども木工教室 ■日時：8/5 9:00～ ■場所：老人憩いの家木工室 ■参加者数：11名 ②《子ども》eスポーツプログラミング体験「MINECRAFT」 ■日時：12/21 9:00～ ■場所：文化センターTOM ■参加者数：14名 ③《子ども》シルクスクリーンワークショップ ■日時：1/25 13:00～ ■場所：文化センターTOM ■参加者数：15名 ④《一般》フタナツワークショップ ■日時：3/15 10:00～ ■場所：文化センターTOM ■参加者数：—	6-1
大 会 の 開 催 等	①第40回サロマ湖100kmワルトマラソン	6/29(日) 湧別総合体育館裏	100kmスタート午前5時00分(100kmの部) 総合体育館裏(東道路上) ※40回記念大会として実施	負担金 3,000千円 負担金 3,000千円	100kmの部 出走者数3,343名 完走者1,952名 完走率58.4% 50kmの部 出走者数 515名 完走者 396名 完走率76.9%	9-1 9-2 9-3 9-4
	②湧別町少年柔道大会「上野カップ2025」	10/11(土)～12(日) 湧別総合体育館	本町のふるさと応援大使であり、柔道オリンピックメダリストの上野姉妹の冠を掲げた全道規模の小・中学生の柔道大会を開催することにより、少年相互の親睦を深め、町の活性化や交流人口の増加を図る。 参加規模：道内外小・中学生400名 大会には上野姉妹のほか、現役の女子柔道の著名人を招致する予定。	歳入総額 2,874千円 参加料700千円 スポーツ振興くじ 2,174千円 歳出総額 3,376千円 —	従来とおりの組織体制や運営体制の確保が困難となったため、今年度は中止。	9-1 9-2 9-3 9-4

令和7年度社会教育事業実績表

領域	事業名	期 日 場 所	計 画 内 容	予算額 実績額 (事業終了分のみ)	実 績 (状 況) 等	中期計画 推進項目
大会の開催等	③第50回 町民300歳 バレーボール大会	12/7(日) 中湧別総合体育館・湧別総合体育館	自治会対抗形式9人制バレーボール大会 ※50回記念大会として実施	消耗品195千円 食糧費33千円 消耗品116千円 食糧費11千円	6チーム 90名参加 優勝：錦・登米床チーム 準優勝：屯市Bチーム 3位：屯市Aチーム、南町チーム	9-1 9-2 9-3 9-4
スポーツ教室	①夏の短期水泳初級教室	8/6(水)～8(金) 湧別プール	正しい泳法を習得させるとともに、泳ぐことの楽しさを味わわせ、水泳の普及拡大を図る。 講師：藤田 千秋 (トッカリ湧波会) 綿張洋史 (会計年度任用職員) 小橋 百合香 (スポーツ推進委員) 対象：各学園1～3年生	講師謝礼 24千円 スポーツ推進委員報酬7千円 スポーツ推進委員報酬10千円	「全く泳げない子」や「顔に水をつけるのが怖い子」などの初級者を対象に実施した。初級者の中でも、参加者のレベルに合わせてグループ分けを行い、1年生～3年生までの28名が参加。 8/6(水)～8(金)：延べ65名	9-1 9-2 9-3 9-4
	②ニューススポーツdeあそび「モルック大会」	9/13(土) 中湧別屋内ゲートボール場	町内の成人層を対象にスポーツを通じて健康や体力づくりを高めるきっかけづくりと新しいスポーツの普及や地域の活性化を図る。アクティブチャレンジ期間中に合わせてモルック大会を実施する。 指導者：スポーツ推進委員 対 象：町内に在住の方	スポーツ推進委員報酬32千円 スポーツ推進委員報酬32千円	今年度はゆうべつアクティブチャレンジの一環として「モルック大会」を行った。モルックを通して、子どもから高齢者までを対象に世代を超えたコミュニケーションづくりを目的として実施した。 参加チーム：18チーム 延べ54名 ※指導者 スポーツ推進委員5名	
	③ジュニアスケート教室	R8, 1/6(水)～8(木) 芭露スケートリンク	町内の各学園(1～6年生)に対してスケートの楽しさを味わわせるとともに、技法を習得させる。 講師：久保 拓也(芭露) 松本 桃子(スポーツ推進委員) 藤本 祐司(教委職員) 三浦 栄敏(教委職員) 対象：各学園1～6年生	講師謝礼 24千円 スポーツ推進委員報酬10千円 講師謝礼 9千円 スポーツ推進委員報酬10千円	3つのレベルに分け、それぞれのグループで基本的な姿勢や滑り方を学び、技術の向上が図られた。また、今年度から目的・目標をもって教室に参加してもらえるよう「チャレンジスケート検定」を行い、1級から5級を目指し検定を受けてもらった。 1/6(火)28名、1/7(水)25名、1/8(木)24名	
	④運動・トレーニング指導	4月～3月 湧別総合体育館ほか	町民の健康維持増進と体力の向上を図るとともに、運動の重要性を理解していただき、スポーツを継続してもらい、トレーニング室の利用者増加に繋げる。今年度より「ゆうふいっと。」と事業名を定め、町民への認知度を高めるとともに参加者の増加に努める。また、「ゆうふいっと。プラス」として夜にも開催し若年層への参加も促していく。新たに「水中エクササイズ」を実施し、水中で正しい運動方法や体力づくりを図るとともに、湧別プールの利用促進に努める。 ■ゆうふいっと。 ・開催回数：月3回 ・講 師：三浦 栄敏(教委職員) ■ゆうふいっと。プラス ・開催回数：月1回 ・講 師：外部委託 ■水中エクササイズ ・開催回数：2回(9/30、10/14) ・講 師：三浦 栄敏(教委職員)	委託料 501千円 委託料 347千円	幅広い年齢層の参加があり、参加者に合わせたトレーニングを実施している。 「ゆうふいっと。」 ■4/3 29名、4/10 9名、4/17 26名 ■5/16 20名、5/22 8名、5/29 19名 ■6/5 3名、6/19 8名、6/11 中止 ■7/3 16名、7/10 中止 ■8/6 5名、8/20 中止、8/28 11名 ■9/4 10名、9/9 中止、9/26 9名 ■10/2 12名、10/8 4名、10/30 11名 ■11/12 6名、11/19 中止、11/27 14名 ■12/11 13名、12/19 5名、12/24 12名 ■1/14 13名、1/21 7名、1/29 18名 ■2/5 中止、2/18 6名、2/26 中止 ■3/4 中止、3/12 5名、3/26 中止 「ゆうふいっと。プラス」 ■5/21 15名 ■6/4 15名 ■7/2 12名 ■8/13 7名 ■9/10 11名 ■10/15 6名 ■11/12 9名 ■12/17 6名 ■1/7 10名 ■2/18 16名、2/25 38名 水の抵抗を利用した運動や水中ウォーキングの実践により、効果的な運動方法を習得することができた。 「水中エクササイズ体験」 ■9/30 3名、10/14 3名	9-1 9-2 9-3

令和7年度社会教育事業実績表

領域	事業名	期 日 場 所	計 画 内 容	予算額 実績額 (事業終了分のみ)	実 績 (状 況) 等	中期計画 推進項目
ス ポ ー ツ 教 育 ・ 啓 蒙 事 業	⑤湧別町・ レバンガ北 海道スポ ーツ推進事業	4月～3月	レバンガ北海道アカデミーコーチを派遣し、バスケットボールに関わる子どもたちの能力向上はもちろんだが、スポーツをする楽しさを実感していただく。また、バスケットボールをしていない子どもにも運動の大切さを実感してもらう。	委託料 2,574千円	レバンガ北海道アカデミーコーチを派遣し、バスケットボールに関わる子どもたちの能力向上はもちろんだが、スポーツをする楽しさを実感していただく。バスケットボールをしていない子どもにも運動の大切さを実感してもらった。 (1) 上湧別学園訪問 ■日 時 7/4(金) 10:30～13:10 ■対 象 上湧別学園5,6年生 (2) バスケットボール教室 ①4/12(土) 湧別総合体育館 ・10:00～12:00 湧別ミニバス少年団22名 ・13:00～15:00 ゆう・上湧学園バスケ部13名 ②5/24(土) 湧別総合体育館 ・10:00～12:00 ゆう・上湧学園バスケ部17名 ・13:00～15:00 湧別ミニバス少年団20名 ③8/1(金) 湧別総合体育館 ・9:00～11:00 ゆう・上湧学園バスケ部20名 湧別高校バスケ部5名 ④11/16(日) 中湧別総合体育館 ・13:00～15:00 湧別ミニバス少年団28名 ⑤11/22(土) 湧別総合体育館 ・13:00～15:00 ゆう・上湧学園バスケ部18名 ⑥12/6(土) 湧別総合体育館 ・10:00～11:30 チャレンジスポーツスクール 23名 ・13:00～15:00 ゆう・上湧学園バスケ部24名 湧別高校バスケ部5名 ⑦2/28(土) 湧別総合体育館 ・13:00～15:00 湧別ミニバス少年団15名 ⑧3/20(金) 湧別総合体育館 ・10:00～12:00 湧別ミニバス少年団7名 ・13:00～15:00 ゆう・上湧学園バスケ部12名 湧別高校バスケ部4名	9-1 9-2 9-3
ス ポ ー ツ 推 進 委 員 事 業	①チャレン ジススポ ーツス クール事 業	5月～3月	各学園(1～3年生)を対象に毎月1回、様々なスポーツ体験を通して、スポーツの楽しさや学校を越えた仲間づくりの一助とする。※事業内容は変更になる場合有 5月 入学式・かけっこ教室 (上湧別百年記念公園広場) 6月 器械体操 (ゆうべつ学園) 8月 キャンプ (湧別総合体育館裏) 9月 五鹿山マラソン (五鹿山スキー場) タグラグビー (湧別総合体育館) 10月 バスケットボール1 (湧別総合体育館) 11月 バスケットボール2 (湧別総合体育館) 12月 スケート体験・氷上ホッケー (芭露スケートリンク) 2月 バドミントン (湧別総合体育館) 3月 ミニ運動会・卒業式 (湧別総合体育館) 指導者: スポーツ推進委員、各スポーツ団体指導者 対 象: 各学園1～3年生	講師謝礼 器械体操 20千円 かけっこ教室 15千円 タグラグビー 5千円 バドミントン 5千円 スポーツ推進委員 報酬268千円	義務教育学校1～3年生55名 スポーツ推進委員が中心となり、様々なスポーツを実施した。 5/17(土) 入学式・かけっこ教室 35名 6/21(土) 器械体操 34名 8/1(金)～8/2(土) キャンプ 37名 9/7(土) 五鹿山マラソン 23名 10/18(土) タグラグビー 24名 11/8(土) バスケットボール1 22名 12/6(土) バスケットボール2 23名 1/14(土) スケート体験・氷上ホッケー 21名 2/14(土) バドミントン 22名 3/7(土) ミニ運動会・卒業式 22名	9-1 9-2 9-3
ス ポ ー ツ 推 進 委 員 事 業	②巡回ス ポーツ指導	随 時 町 内	自治会・老人クラブ等の要請に基づき、スポーツ推進委員が outgoing、軽スポーツやレクリエーションの指導を行う。	スポーツ推進委員 報酬13千円		9-2 9-3
ス ポ ー ツ 推 進 委 員 事 業	③スポーツ 推進委員研 修	随 時 管 内 道 内	町民のスポーツ活動の的確な支援を行うため、研修を通じて委員としての資質向上を図る。 遠軽・紋別地区スポーツ推進委員研修会 湧別町 オホーツク管内社会体育振興セミナー 湧別町 北海道スポーツ推進委員研究協議会 岩内町	スポーツ推進委員 報酬218千円 費用弁償 91千円 スポーツ推進委員 報酬135千円 費用弁償 59千円	①オホーツク管内スポーツ推進委員連絡協議会 ■日程: 5/13(金) ■場所: 清里町 ■参加: 石川委員長、事務局1名 ②北海道スポーツ推進委員研究協議会 ■日程: 10/11(土) 岩内町 ■場所: 岩内町 ■参加: 石川委員長、海谷委員、事務局1名 ③オホーツク管内社会体育振興セミナー兼 遠軽・紋別ブロックスポーツ推進委員研修会 ■日程: 11/15(土)～16(日) ■場所: 湧別町 ■参加: スポーツ推進委員 10名	9-2

令和7年度社会教育事業実績表

領域	事業名	期日 場所	計画内容	予算額 実績額 (事業終了分のみ)	実績（状況）等	中期計画 推進項目
団体 活動 の 育 成 援 助 等 施設 の 整備 活 用 その他	①少年スポーツ団体の育成援助	年間	少年団本部への補助	補助金600千円	湧別町スポーツ少年団本部への補助	9-2 9-4
		—		補助金600千円		
	②一般スポーツ団体の育成援助	年間	体育協会への補助	補助金671千円	湧別町体育協会への補助	
		—		補助金671千円		
	③大会出場助成	年間	全道大会以上の出場者に対して遠征費の一部を助成する。 (湧別町スポーツ・文化遠征費補助金)	補助金 2,000千円 補正4,400千円	20件（個人15件、団体5件）	9-2
		—		補助金 5,071千円		
	④合宿誘致助成	年間	合宿を誘致することにより町のスポーツの振興を図る。 (湧別町スポーツ・文化合宿誘致事業補助金)	補助金1,854千円	1件 別紙関連事業のとおりに	9-1
		各施設		補助金101千円		
	①施設の整備	年間	施設の点検、適正な維持管理を図る。	詳細は別紙社会教育施設整備計画のとおりに	別紙社会教育施設整備計画のとおりに	9-4
		各施設				
②施設の活用	年間	指定管理施設の適正かつ効率的な運営に対する監督、学校開放施設に関する利用調整など体育施設の有効活用を図る。	学校開放運営報告 60千円	団体数：2団体 ・屯市体育部（300歳バレー練習）6日 ・教育委員会（チャレンジスポーツスクール）1日 使用日数：合計7日間		
	各施設		学校開放運営報告 7千円			
①スポーツ安全保険の加入促進	随時	広報周知等 インターネット（スポあんネット）にて加入する。	手数料1千円	ホームページやかわらばん等において周知し、保険の加入促進を図った。	9-2	
	—		手数料1千円			
図書館 活動	①図書館資料の収集、整理、保存	年間	資料費（図書、雑誌、新聞、視聴覚） 8,000千円	<蔵書冊数> ・図書 中湧別 80,717冊 湧別 72,324冊 合 計 153,041冊 ・雑誌 中湧別 56誌 湧別 45誌 ・新聞 中湧別 7紙 湧別 4紙 ・視聴覚資料 中湧別 1,029点 湧別 1,747点 合 計 2,776点 ・デジタル化 中湧別 0点 湧別 3点 ・図書館システム機器更新 中湧別 令和7年8月20日 更新 湧別 令和7年8月19日 更新	7-1	
		両館	資料費（図書、雑誌、新聞、視聴覚） 8,000千円			

令和7年度社会教育事業実績表

領域	事業名	期日 場所	計画内容	予算額 実績額 (事業終了分のみ)	実績(状況)等	中期計画 推進項目
図書館	②利用促進、読書機会の提供	年間	調べものの相談、案内を通して利用促進を行う。		・開館日数 中湧別 295日 湧別 295日 ・来館者数 中湧別 9,969人 湧別 5,240人 合計 15,209人 ・貸出人数(絵本くらぶ、移動図書館車を除く) 中湧別 5,703名 湧別 3,210名 合計 8,913名 ・貸出冊数(絵本くらぶ、移動図書館車を除く) 中湧別 23,066冊 湧別 11,527冊 合計 34,593冊 ・所蔵調査 中湧別 476件 湧別 260件 合計 736件 ・調べもの 中湧別 25件 湧別 36件 合計 61件	7-2
			・インターネットによる情報発信を行う。 デジタル資料の公開 事業のお知らせ 司書によるおすすめ本の紹介(新着図書案内) 図書館だより 児童向け情報発信		・ホームページの更新 ・図書館だよりの更新 ・新着図書案内の更新(月2回発行) ・としょかんだより(児童向け)	
			宅配貸出サービス(月2回) ・来館が困難な町民に対して個別に配送貸出を実施		・登録者数 10名 ・実績(延べ) 73名 338冊	
	③ブックスタート	両館	・マイナンバーカード連携の啓発 現行図書館システムの利用者番号とマイナンバーカードを連携することにより、マイナンバーカードでも図書等の貸出が可能となる。 (令和6年9月4日 運用開始)		・登録者数 20名 ・実績(延べ) 貸出人数 187名 貸出冊数 657冊	7-2
		年間	・ブックスタート(月1回) 絵本2冊と手作りバックの配布 4ヶ月児対象 健診時に絵本とバックをメッセージと共に配布 ・ブックスタートプラス(年2回) 絵本1冊とブックガイドの配布 5～6歳児対象 就学時健診時に絵本とブックガイドを配布 ・協力(バック) ルピナスの会(バック本体) 湧別高校ボランティア部(名札)	資料費(絵本) 142千円	・ブックスタート実績 4月 なし 5月 4名(ボランティア 1名) 6月 5名(ボランティア 1名) 7月 5名(ボランティア 1名) 8月 4名(ボランティア 1名) 9月 3名(ボランティア 1名) 10月 1名(ボランティア 1名) 11月 3名(ボランティア 1名) 12月 2名(ボランティア 1名) 1月 4名(ボランティア 1名) 2月 4名(ボランティア 1名) 3月 5名(ボランティア 1名) 合計 40名 ・ブックスタートプラス実績 10月 保健福祉センター 19名 上湧別コミュニティーセンター 25名 合計 44名	
	④絵本くらぶ	年間	絵本の宅配(月1回) 3歳までの乳幼児がいる家庭に おすすめ本セットを宅配(登録制)		・登録者(会員制/月1回宅配) 14名 ・貸出実績 4月 14名 70冊 5月 14名 70冊 6月 14名 70冊 7月 14名 70冊 8月 14名 70冊 9月 14名 70冊 10月 14名 70冊 11月 14名 70冊 12月 14名 70冊 1月 13名 65冊 2月 13名 65冊 3月 13名 65冊 合計 165名 825冊	7-3

令和7年度社会教育事業実績表

領域	事業名	期 日	計 画 内 容	予算額	実 績（状 況）等	中期計画 推進項目
		場 所		実績額 （事業終了分のみ）		
図 書	⑤移動図書館車の運行	年 間	・移動図書館車で町内を巡回し、広域サービスを実施する。機動性を活かし遠隔地域を中心に、子どもから大人まで図書に出会う場を広げ、読書活動の推進を図る。 ・児童、生徒、職員等が乗車して利用する以外に、一部ステーションでは図書館職員が選本したセット配本を行う。 ＜ステーション＞ ・認定こども園、保育所 3か所（年8回） ・児童センター 5か所（年8回又は年4回） ・子育て支援センター 1か所（年8回） ・学校 3か所（年8回）		・乗車 4月（巡回なし・準備期間） 5月 47名 243冊 6月 60名 279冊 7月 66名 259冊 8月 8名 43冊 9月 54名 262冊 10月 69名 308冊 11月 67名 252冊 12月 79名 247冊 1月（巡回なし） 2月 78名 364冊 3月 回収のみ 合計 528名 2,257冊	7-3
		両 館		・配本 4月（巡回なし・準備期間） 5月 41名 761冊 6月 44名 820冊 7月 49名 940冊 8月 5名 100冊 9月 38名 700冊 10月 38名 700冊 11月 14名 261冊 12月 47名 917冊 1月 14名 280冊 2月 12名 190冊 3月 回収のみ 合計 302名 5,669冊		
館	⑥学校図書館支援	年 間	・クラス配本 ・学校図書館用図書の購入支援 ・学校図書館レシアフト相談 ・学校図書館蔵書管理、蔵書計画 ・図書館見学の受入 ・職場体験の受入 ・読書オリエンテーション ・家読おすすぬ絵本リスト作成配布 ・読書通帳の提供		・クラス配本 5月配本開始、年8回配本（5月、6月、7月、9月、10月、11月、12月、2月） 配本料4種（1-2年生、3-4年生、5-6年生、7-9年生） 各1セット20冊、特別支援学級1セット10冊 ・学校図書館用図書の新規購入・図書データ作成支援 5月～2月 各学校の選書、発注、データ作成を支援 ・図書館見学 5月 芭露学園1-2年18名 6月 上湧別学園1年22名、上湧別学園2年29名 7月 カナダ・ホワイトコート7名 12月 ゆうべつ学園2年14名、湧別高校38名 ・職場体験 9月 湧別高校2年2名 ・読書オリエンテーション 10月 44名（詳細はブックスタートプラスに記載）	
		町内学校				
活	⑦古本コーナー	年 間	・古本、古雑誌のリサイクル活動。		・実績（延べ） 中湧別 447名 1,452冊 湧 別 324名 1,371冊 合 計 801名 2,823冊	7-2 7-3
		両 館				
動	⑧特別展示	4月～5月	・こどもの読書週間特別展示		・中湧別 4/25～5/31 「なりきりおすしやさん」 ・湧 別 4/25～5/31 「児童図書ランキング」 6/21～9/28 「なりきりおすしやさん」	7-2 7-3
		10月	・絵本原画展示（遠軽紋別地区公共図書館共同事業）	著作物使用料 35千円	・中湧別 10/4～10/18 「おとうさんのこわいはなし」（かとうまふみ／作・絵）	
		中湧別図書館		著作物使用料 33千円		
		9月～11月	・町民大学講師著作展示		・町民大学講師著作本展示 9/3～11/30 講師関連本紹介	
		両 館				
		10月～11月	・秋の読書週間特別展示		・中湧別 11/4～12/7 「おばけやしき in 中湧別図書館」 ・湧 別 10/26～11/30 「文芸エクラ大賞2025」紹介展示 1/6～2/8 「おばけやしき」	
		両 館				
		年 間	・テーマ：年中行事		・テーマ展示 ・年中行事展示	
両 館						
西 館	年 間	協力展示（展示スペースの貸出）		・中湧別 6/27～7/8 「教科書展示」（教育総務課） ・両 館 3/31～ 「湧別の自然パンフレット展示」（上湧別学園4年生）		
	西 館					

令和7年度社会教育事業実績表

領域	事業名	期日 場所	計画内容	予算額 実績額 (事業終了分のみ)	実績(状況)等	中期計画 推進項目
図書 館	⑨連携・ ネットワーク	年間	・読み聞かせ活動ボランティア団体 読み聞かせサークル「りんごっこ」 リーディング倶楽部たんぽぽ 湧別高校ボランティア部 ・読み聞かせ等活動支援 ゆうべつ学園「朝の読み聞かせ会」 (リーディング倶楽部たんぽぽ) 中湧別図書館読み聞かせ会 (りんごっこ、湧別高校ボランティア部) ・その他		・リーディング倶楽部たんぽぽ 毎週水曜日 ゆうべつ学園 1～6年生「朝の読み聞かせ会」 年31回開催(6/11～3/18) 延べ90名(内休み3/11) 毎週水曜日 本の修理ボランティア 年46回開催(4/9～3/25) 延べ257名、修理本199冊(中湧別24冊、湧別175冊) 育児学級「読み聞かせ」(子育て支援センター事業) 年6回開催(5/13～3/10) 延べ12名	7-3
		両館			・りんごっこ 月2回土曜日 中湧別図書館「読み聞かせ会」 年22回開催(4/5～3/21) 事業協力延べ42名 「読み聞かせ会」参加者延べ40名 ・湧別高校ボランティア部 月2回土曜日 中湧別図書館「読み聞かせ会」 年22回開催(4/5～3/21) 事業協力延べ94名 壁面制作(中湧別図書館おはなしコーナー設置) ・ルピナスの会 ブックスタートバック制作 手作りバック40個寄贈 ブックスタート事業協力11回(5/27～3/24)	
		会議3回 研修1回	図書館協議会 ・定例会議 3回 ・委員視察研修(町内学校図書館)	図書館協議会 委員報酬 80千円 費用弁償 8千円	・図書館協議会委員 6名 6月 第1回図書館協議会会議 5名出席 11月 第2回図書館協議会会議 4名出席 1月 委員視察研修(町内学校図書館) 4名出席 2月 委員1名解任(2/28) 3月 第3回図書館協議会会議 3名出席	
		湧別図書館		図書館協議会 委員報酬 45千円 費用弁償 6千円		
		7月～9月 両館	・北海道教育委員会主催「本を読んでファイターズを応援しよう」 キャンペーン参加		・「こどもたちに読んでほしい200冊」等展示(両館) ・キャンペーン読書期間 7/26～8/24 ・実績 参加者 11名(事前登録者) 読了者 8名(達成者)	
文化 財 保 護	①文化財の 保護(1) 埋蔵文化財	年間	○開発行為に伴う埋蔵文化財の保護事業 ・開発事業者との事前協議 ・所在調査、試掘調査 ○埋蔵文化財包蔵地の状況把握 ・現状確認(遺跡パトロール) ・周知資料(台帳等)の整備 ○シブノツナイ堅穴住居群の調査報告書 ・総括報告書の発行(3月下旬) ○シブノツナイ堅穴住居群の史跡範囲変更 ○シブノツナイ堅穴住居群調査検討委員会の開催 ・有識者3名、国・道の担当者2名程度 ・夏と冬の2回開催	印刷製本費 2,145千円	○開発行為に伴う埋蔵文化財包蔵地の保護活動 ・埋蔵文化財包蔵地の照会:8件 ・事前協議2件(過年度継続協議、他4件) ・所在調査2件 ・試掘調査3件 ・工事立会0件、慎重工事0件 ○埋蔵文化財包蔵地の状況把握 ・現状確認作業(遺跡パトロール)随時実施 ・周知資料(台帳等)の内容確認と修正 ○シブノツナイ堅穴住居群の保護 ・発掘調査総括報告書の発行(3/20) ・道史跡範囲の変更準備(面積測量) ○シブノツナイ堅穴住居群調査検討委員会の開催 第一回:9/25 委員3名、町教委2名、 オブザーバー2名(道教委1名、文化庁1名) 第二回:1/28 委員3名、町教委2名、 オブザーバー1名(道教委1名)	8-1
		町内各所		印刷製本費 2,145千円		
活 動	②文化財の 保護(2) 自然関連	年間	○北海道指定文化財アッケシ草群の経過観察 ○天然記念物の手続(死亡・はく製・調査) ・オジロワシ ・タンチョウ ○記念木業務における関連部署との調整		○(道指定)天然記念物 ・佐呂間湖畔鶴沼のアッケシソウ群落 経過観察:9月実施 ○(国指定)天然記念物 ・オジロワシ ・タンチョウ 手続(死亡・はく製・調査):0件	8-2
		町内各所				
博物館 活動	①博物館資料(1) 収集	年間 郷土館・ふるさと館JRY	【開拓関連資料】 ○資料寄贈への対応 【考古資料】 ○発掘調査に伴う出土資料の譲与申請		○博物館資料の寄贈受入 ・寄贈資料受入11件(屯田関係資料ほか) ○文化財の認定と取得 ・埋蔵文化財の譲与申請:1件 令和6年度発掘調査出土資料	8-2

令和7年度社会教育事業実績表

領域	事業名	期日 場所	計画内容	予算額 実績額 (事業終了のみ)	実績(状況)等	中期計画 推進項目
博物館活動	②博物館資料(2) 整理・保管	年間 郷土館・ふるさと館JRY・収蔵庫	○考古資料 ・シブノツナイ竪穴住居群出土資料の整理 ・試掘調査等出土資料の整理 ○開拓関連資料 ・資料の保存環境整備 ○収蔵庫管理 ・文書資料の整理 ・資料外保管物の処分 ・資料移動(旧邑小体育館等) ○収蔵資料の特別利用許可に関する業務		○考古資料 ・シブノツナイ竪穴住居群出土資料の整理 ○開拓関連資料 ・保存環境の整備 ○収蔵庫の管理と保管資料の状況確認 ・JRY収蔵量増加 ○収蔵資料の特別利用許可 ・3件(湧別市川遺跡出土資料ほか)	
	③博物館資料(3)展示	年間 郷土館・ふるさと館JRY	○郷土館 ・企画展:発掘調査速報展(仮) ○ふるさと館JRY ・常設展示更新:解説パネルの追加と更新 ・収蔵展示室整備		【郷土館】 ○展示 ・「令和6年度発掘調査速報展」 6/27(金)～12/26(金) ○入館者数(3/31時点) ・541名(大人446名、内町民28名、幼児～高校95名、内町民80名) 【ふるさと館JRY】 ○常設展示更新 ○入館者数(3/31時点) ・2,494名(大人1,914名、内町民180名、小学～高校580名、内町民192名)	
	④調査研究	年間 ー	【博物館資料(開拓期)の調査・関連事項の研究】 ・開拓期の衣食住 ・兵制度 ・冬季の生活 【埋蔵文化財の保護と活用、博物館教育】 ○道史跡の守るべき範囲・価値の明確化 ・シブノツナイと他の竪穴群との比較研究 ・古環境復元、食性解明の自然科学分析 ○教材研究 ・遺跡を活用した博物館教育の実践的研究 ○その他(大学等研究者との共同研究) ・北海道大学考古学研究室の発掘等調査支援(2年目) 対象遺跡:川西オホーツク遺跡		【博物館資料(開拓期)の保存・活用】 ○保存 ①屯田資料 ・収蔵資料の保存に関する調査研究(害虫等) ・資料清掃および注記 ○活用 ・体験活動の系統化 ・開拓期の衣食住 ・冬季の生活 【埋蔵文化財、博物館教育】 ○事例研究 ・シブノツナイと道内竪穴住居群の比較 ○自然科学分析(シブノツナイ関係) ・古環境復元 岡孝雄(北海道総合地質学研究センター) ・年代測定と食性分析 國木田大(北海道大学准教授) ・土器片痕分析 太田圭(東京大学助教) ・黒曜石産地推定 大塚宣明(札幌学院大学准教授) ○教材研究 ・遺跡散策ガイドブック『遺跡のミカタ』の更新 ・シブノツナイ竪穴住居群案内パンフの改訂版 ○調査支援 ・北海道大学考古学研究室の発掘調査 対象遺跡:川西オホーツク遺跡の調査 調査期間:8/12～19(3年計画の内、2年目)	8-2
	⑤博物館教育(1) 学校授業・研修会・講座	年間 郷土館・ふるさと館JRY	【学校授業・研修会・講座】 ○開拓の歴史 (道具の変遷や機能の紹介) ・労働体験(鋸・斧・鉋) ・開拓期の衣体験 ・屯田生活体験館の活用 ○先史文化 (文化財である遺跡に触れ、親しむ機会の提供) ・先史文化の工夫を学ぶモノづくり学習 (土器・勾玉) ・遺跡に親しむフィールドワーク (主に学校授業、シブノツナイを対象) ・遺跡の知識を深める講座 遺跡調査報告会(11月予定) ※各種調査、報告書作成に伴う成果速報	講師謝礼 70千円	【学校授業、研修会等の学習機会提供】 ○授業及び展示解説実績(3/31時点) ①ふるさと館JRY 38件676名(内学校:19件337名) ②郷土館 4件99名(内学校:1件19名) ③出張講演 9件262名(内学校:7件231名) ④施設利用 8件362名 【講座等】 (協力) ○遺紋地区議会議長会 日時:7/24 会場:ふるさと館JRY 人数:約80名 講師:ふるさと館JRY 館長 中島一之 (主催) ○令和7年度遺跡調査報告会 日時:11/1 会場:ふるさと館JRY 人数:30名 講師①東京大学 教授 熊木俊朗 講師②ふるさと館JRY 学芸員 林勇介	8-3

令和7年度社会教育事業実績表

領域	事業名	期 日 場 所	計 画 内 容	予算額 実績額 (事業終了分のみ)	実 績 (状 況) 等	中期計画 推進項目
博 物 館 活 動	⑥博物館教育(2) 広報・情報提供	年 間 —	【広報・情報提供】 ○博物館だよりの発行（湧く湧く内、HP） ○郷土史に関する情報提供及び質問対応（レファレンス）		【広報・情報提供】 ○博物館だよりの発行（湧く湧く内） 4～3月号（184号～195号） ○郷土史に関する質問対応 ・屯田兵祖先調べ、町内の遺跡など	8-3

中期計画推進項目の欄は、第3次湧別町社会教育中期計画における推進項目との対応を示すものです。

中期計画における領域	推進項目	表記
第1節 家庭教育	学習機会の提供	1-1
	活動等の支援	1-2
	学習環境づくり	1-3
	連携ネットワーク	1-4
第2節 少年教育	学習機会の提供	2-1
	活動等の支援	2-2
	学習環境づくり	2-3
	連携ネットワーク	2-4
⋮	⋮	⋮
第10節 生涯学習の基盤整備	学習推進体制整備	10-1
	施設整備・活用	10-2
	学習情報収集・相談	10-3
	指導者養成・団体	10-4
	連携ネットワーク	10-5

令和7年度 関連事業（後援・連携事業）

団体名	事業名	期 日	場 所	計 画 内 容 等	実績（状況）等	備 考
青少年指導センター	子ども会フットベースボール交流会	7/6（日）	中湧別ゲートボール場		参加人数に応じてチーム編成を行い、交流会として、地区対抗戦や地区混合戦を実施。参加人数12名。	
	子ども会リレー駅伝大会	10/5（日）	上湧別百年記念公園	地域子ども会の大会への参加を通して、青少年の健全育成を図ると同時に、地域子ども会活動の促進と、相互の交流を図る。また、監督会議や反省会等を通じ、子ども会で構成される組織運営の健全化を図り、地域自治の基盤づくりを支援する。	集まった26名を4チームに分けて実施。上湧別百年記念公園を15周（約7.5km）	
	子ども会ミニバレーボール大会	11/9（日）	中湧別総合体育館		ジュニアの部（33名）8チーム ティーンズの部（17名）4チーム	
	子ども会リーダー研修会	(夏) 7/26（月）～27（火） (冬) R8.3/28（土）～29（日）	五鹿山公園 紋別生涯学習センター	社会教育事業 少年教育参照	社会教育事業 少年教育参照	
	ジュニアリーダーの養成	年 間	町内	リーダー研修会の企画運営などを行う、義務教育学校後期課程・高校生リーダークラブと、その指導にあたる青少年指導員の活動を支援し、地域づくりやまちづくりに参画できるリーダーの養成を図る。	青少年指導員：3名 ジュニアリーダークラブ「CAPTAIN★TEENS」：16名登録 「Rainbow prop」：2名登録 ●第1回子ども会リーダー研修会に係る企画会議3回実施（5/11、5/31、7/13） ※7/26～27第1回子ども会リーダー研修会（五鹿山） ●第2回子ども会リーダー研修会に係る企画会議3回実施（11/16、12/28、3/7） ※R8.3/28（土）～29（日）第2回子ども会リーダー研修会（紋別生涯学習センター）	
町民会議	青少年健全育成町民会議事業	年間		青少年のたくましく健全な成長と青少年問題の理解を深めるとともに健全育成を図る。 ①あいさつ運動 ②指導、補導 ③青少年により発行 ④優良青少年表彰	①あいさつ運動②街頭補導③青少年により発行④優良青少年表彰	補助金 400千円
文化連盟	総合文化祭	展示の部 10/4（土）5（日）	文化センターTOM（展示）	町内の芸術・文化関係者による日頃の活動成果の発表の機会と、町民に芸術・文化活動にふれてもらい文化の振興、発展を促します。	■展示発表会 10月4日（土）～5日（日） 文化センターTOM ■芸能発表会 10月19日（日） 文化センターさざ波	
		芸能の部 10/19（日）	文化センターさざ波（芸能）			
ゆうべつ五鹿山マラソン2025実行委員会 良いもの見よう聞こう会	芸術鑑賞会	9/28（日） 19：00	文化センターさざ波	相川七瀬SPECIAL LIVE2025	■日程 9月28日（日）17時開演 ■場所 文化センターさざ波 ■売上枚数 375枚 ■入場者数 366名	
		11/8（土） 19：00	文化センターさざ波	半崎美子明日を拓くコンサート2025	■日程 11月8日（土）19時開演 ■場所 文化センターさざ波 ■売上枚数 357枚 ■入場者数 346名	
		8/10（日） 15：00	文化センターさざ波	立川春の輔・柳亭小痴楽二人会	■日程 8月10日（日）15時開演 ■場所 文化センターさざ波 ■売上枚数 313枚 ■入場者数 310名	
		R8. 2/15（日） 14：00	文化センターさざ波	演劇ONEOR8「ママごと」公演	■日程 2月15日（日）14時開演 ■場所 文化センターさざ波 ■売上枚数 138枚 ■入場者数 134名	
体育協会	ゆうべつ五鹿山マラソン2025	9/7（日）	五鹿山スキー場	五鹿山スキー場を駆け上がるマラソン大会を実施することにより、町民の体力増進や健康づくりを高めるきっかけづくりと地域の更なる一体感の醸成を図ることを目的とする。	小学生1年生の部 11名 小学生2年生の部 6名 小学生3年生の部 8名 小学生4年生の部 2名 小学生5年生の部 2名 小学生6年生の部 3名 中学生の部 1名 高校生の部 19名 一般の部 12名 団体の部（4チーム） 12名 合計 76名	教委、スポーツ推進委員も運営協力

令和7年度 関連事業（後援・連携事業）

団体名	事業名	期 日	場 所	計 画 内 容 等	実績（状況）等	備 考
スケート協会	第56回湧別町スケート大会	R8. 1/31(土)	芭露スケートリンク	1周300mシングルトラックタイムレース（男女混合学年別） 未就学児、前期課程、後期課程、一般、アトラクション（宝さがし）	未就学児 2名、前期課程36名、後期課程3名、一般18名 合計59名	
実行委員会	ゆうべつアクティブチャレンジ2025	9/6（土） ～13（土）	町内	笹川スポーツ財団主催である住民総参加型のスポーツイベント「アクティブチャレンジ」に参加し、町民の健康づくりや体力づくり、スポーツやレクリエーション活動への参加意欲の高揚と習慣化を推進する。	■実施プログラム 61団体 3,185名 ■利用施設 17施設 3,018名 ■電話・電子報告 359名 計 6,562名	
	【新規】稚内高校吹奏楽部合宿	7月	文化センターさざ波	吹奏楽合宿のほか、町内の中学校、高校と合同での演奏会などを開催することで、吹奏楽の普及を図るとともに他生徒との交流を図る。	全道大会の当番校の時期と重なったため中止。	
	駒澤大学合気道部合宿	8月	湧別町武道館	合宿中に行われる公開練習や演武会、教室等の開催により合気道の普及を図るとともに町民との交流を図る。 合宿予定人員：20名予定	日程調整の都合がつかず中止。	
	【新規】合気道木下道場合宿	9/9（火） ～12（金）	湧別町武道館	合宿中に行われる公開練習や演武会、教室等の開催により合気道の普及を図るとともに町民との交流を図る。 合宿予定人員：10名予定	合宿人数7名	
	北柔会道場湧別合宿	10月	湧別武道館	柔道合宿のほか、町内の子ども達に対する柔道教室を開催することで、柔道の普及、交流人口の拡大を図る。 合宿予定人員：40名予定	例年、柔道大会終了後に合宿を実施していたが、入会が中止になったため、合宿も中止。	
	第40回湧別原野オホーツククロスカントリースキー大会	R8. 2/22(日)	遠軽町→湧別町	原野コース80km、北大雪コース56km、遠軽コース22km、湧別コース24km、10kmコース、5kmコース、駅伝コース95km	原野コースは雪不足のため中止となった。 【24kmコース】 ・出走者 409名 ・完走者 408名 ・完走率 99.76% 【10kmコース】 ・出走者 57名 ・完走者 56名 ・完走率 98.25% 【駅伝コース】 5チーム 完走5チーム	

社会教育施設整備計画（500千円以上または主要なもの）

（単位：千円）

施設名	改修・整備等内容	事業費	実績額	備考
上湧別農村環境改善センター	多目的ホール輻射暖房機改修工事	3,830	3,663	6月補正
文化センターTOM	外壁（西側）改修工事	18,100	17,600	
	照明LED化工事	29,700	29,106	
文化センターさざ波	空調自動制御機器ダンパー操作器取替修繕	1,090	1,089	
湧別プール	鉄骨塗装工事	8,740	8,363	
湧別武道館	照明LED化工事	1,960	1,859	
中湧別屋内ゲートボール場	照明LED化工事	5,150	5,115	
芭露パークゴルフ場	乗用芝刈機購入	2,300	1,870	
五鹿山スキー場	圧雪車修繕	2,610	2,602	9月補正
湧別図書館 中湧別図書館	図書館システム購入事業	5,506	27	備品譲渡割賦金 R7 27千円 R8 1,393千円 R9 1,377千円 R10 1,362千円 R11 1,347千円
湧別図書館	温水暖房修繕（R6保守点検時指摘5箇所）	960	957	
ふるさと館JRY	芭露収蔵庫屋根修繕	583	528	

5 外部評価

(1) 学識経験者

氏 名	所 属 等
尾山 弘	元 湧別町教育委員会 教育総務課長

(2) 聴取日

令和8年8月26日（水）

(3) 主な意見

令和7年度の「教育委員会点検・評価報告書」は、令和7年度湧別町教育行政執行方針に掲げられた内容に基づき、主要な事業ごとに適切に整理区分され、事業内容や成果、課題や改善方策がまとめられており、1年間、目標を達成するため、方針に沿って事業が適切に行われていたことが窺えます。

今後、この評価をさらに検証し、学校教育や社会教育において、地域住民のニーズに応じた教育の振興のためご尽力されるよう期待します。

ア) 教育委員会の活動状況について

教育委員会は独立した行政機関として教育長と4名の教育委員による慎重審議が行われ、定期的に会議が開催されており、適正にその機能を果たしてきたものと認められます。

審議状況を見ますと、法令又は条例に基づく委員等の任命に関することや法規たる性質をもつ教育委員会告示、規則・規定の改正に関することが多く審議され、各種委員会委員の委嘱等が適切に行われたこと、また、国の制度改正や社会の実情に合わせ、関係条例等の改正について十分な協議がなされたことが窺い知れます。

教育委員会会議以外では、上湧別学園の開校記念式典など多くの行事に参加されるとともに、学校訪問で現場の状況を把握されるなど、積極的に活動されていると判断できます。

イ) 学校教育について

上湧別学園開校記念事業への支援、教育アドバイザーによる定期・随時の学校訪問、こども園・保育所・義務教育学校交流会の開催は、町内全校の義務教育学校化を支える取組として高く評価できます。特に、校長・教頭への継続的な指導助言や校長会議を通じた授業改善の働きかけは、学校運営の安定化と学校力向上に資するものです。また、幼児期から前期課程への学びの接続を意識した交流計画も意義深いと考えます。一方で、9年

間の系統性・連続性を生かした学校づくりには、組織体制の定着に向けた時間確保と丁寧な支援が必要であり、今後も学校間・教員間の実践差の縮小と、誰一人取り残さない授業づくりの一層の推進を期待します。

学力向上では、全国学力・学習状況調査において、小学校が国語・算数・理科の全教科で全国平均を上回ったことは、補充学習「まなびいタイム」や学力向上支援員の配置、チャレンジテストの活用、さらに「学び合いのある学び」を柱とした継続的な授業改善研修の成果として高く評価できます。また、先進校視察や働き方改革・メンタルヘルス研修の実施は、教職員の専門性と学校運営力の向上にもつながっています。一方で、中学校では国語・数学が全国平均を下回っており、特に思考力・判断力・表現力の育成が課題であると考えます。今後は、義務教育学校9年間の系統性・一貫性を意識した指導の充実と、各事業の一本化による取組の焦点化を進め、町内全校でより実効性の高い授業改善を推進していくことを期待します。

I C T教育については、「湧別町 I C T教育推進委員会」が中心となり、情報共有や研修会の開催により、各学校で着実に活用の機会が増加していることがわかります。今後においては、更新時期を迎える1人1台端末の計画的な整備を行うとともに、生成AIの飛躍的な進歩に起因する情報リテラシーの育成や情報モラル教育の充実を図ることが重要であると考えます。

中高一貫教育は、「つなぎ学習」やZoomを活用した遠隔指導、授業交流、部活動クリニック、合同講演会、地域と連携した探究活動の推進により、中高接続の具体化と教員間連携の深化に成果が認められます。特に、探究的活動で育成すべき資質・能力を整理した点は評価できます。一方で、基礎基本の定着に向けた継続的支援、キャリア教育との整理を踏まえた探究活動の充実、関係組織との役割整理を進め、学びと交流の質をさらに高める必要があると考えます。

湧別高校存続対策事業では各種補助事業が行われ、保護者の経済負担軽減、学力向上、部活動の推進や生徒募集に適切に支援が行われており、湧別高校進学への対策に効果があったと考えられます。また、令和7年度からは、体験入学や地域みらい留学生に対する交通費の助成制度も創設しており、引き続き町内外からの入学者確保に繋がるような支援を期待します。

ウ) 社会教育について

社会教育振興事業では、「家庭教育」「青少年教育」「成人教育」「高齢者教育」の各世代別のニーズに対応した事業や各種団体運営支援を通じて町民の自主的な学習活動を推進する事業が実施されていたと思います。

青少年教育においてのリーダーの養成を行ったことや、高齢者教育においてチューリップ生きがい大学を中心に多くの交流事業が実施されたことは

仲間づくりや新たな体験活動の提供に効果的であったと考えます。

社会教育施設については、計画的に整備が行われており、町民が安全安心に施設を利用できるよう管理がされております。

スポーツ活動振興事業では、アクティブチャレンジやレバンガ北海道によるバスケットボール教室といった町民がスポーツに親しむ機会の提供と健康を維持・増進する支援が積極的に行われています。

芸術文化振興事業では、文化連盟や団体の補助、自主的活動推進を支援したほか、各世代向けの事業を実施し、多くの町民が芸術文化に触れる機会が提供できています。これからも生活を潤す芸術・文化に親しむ機会を提供し、文化意識の高揚が推進される取組を期待します。

部活動地域移行事業では、部活動の地域移行に向け、検討委員会や関係者との懇談を重ね、部活動指導員等が担う仕組みの整備や、野球部の地域クラブ移行方針の確認に至った点は評価できます。受皿となる地域団体との連携強化、教員と指導員・サポーター間の方針共有、認定制度や兼業兼職を含む仕組みづくりを着実に進め、持続可能な地域展開を図ることが必要であると考えます。

博物館・文化財保護活動では、「川西シブノツナイ遺跡」の発掘調査をまとめた総括調査報告書が作成されるとともに、情報の収集及び資料の整理、調査研究の発表などが実施されています。また、博物館が持つ情報を活用し、学校の授業や研修会、出張授業を実施したことは大変有益なことと思います。

図書館活動振興事業では、適切に資料の収集、整理、図書の貸し出し、管理が行われています。また、ブックスタート関連事業、特別展示、郷土資料のデジタル化やマイナンバーカードによる利用開始も実施されており、読書に親しむ機会提供と利便性の向上が図られています。

エ) まとめとして

教育委員会におかれては、学校教育をはじめ、生涯学習、社会教育、文化・スポーツの振興など、幅広い分野において多様な事業を展開されており、町民の期待や要望も大きいところであります。こうした中、さまざまな教育課題への対応や、幅広い町民ニーズを踏まえた事業の充実に向け、日々努力されていることに敬意を表します。

少子化や人口減少の進行に加え、子どもたちや地域を取り巻く環境、価値観、学びの在り方も一層多様化しており、教育行政には柔軟かつ的確な対応が求められています。また、学校、家庭、地域、関係機関が相互に連携しながら、それぞれの役割を果たしていくことが、今後ますます重要になるものと考えます。湧別町の教育がさらに充実し、発展していくための積極的な取り組みに期待します。

教育委員会においては、この点検・評価の内容を十分に検証し、継続すべき取り組みは着実に推進するとともに、課題や改善点については今後の施策に適切に反映されるよう努められ、引き続き湧別町の教育の推進に尽力されることを期待します。

6 参考資料

令和7年度 湧別町教育委員会教育行政執行方針

令和7年第1回湧別町議会定例会の開会にあたり、教育委員会の所管行政に関する主要な方針を申し上げます。

急速に変化する社会、また予想が難しい将来に立ち向かっていくためには、子どもたちは自ら考え、判断し行動できる「生きる力」を身に付ける必要があります。児童生徒の個々の可能性を引き出し、能力を磨くと同時に他者と関わり、互いに協力しながら学び合い成長していくことが大切です。

また、子どもから高齢者まで生涯にわたって教育活動が継続できる環境を整備していく必要があります。全ての町民が喜びを感じながら継続的に学べる機会を提供していくことが重要であります。

教育委員会といたしましては、学校教育の柱を「知」・「情」・「意」・「体」・「郷土」と定めて、子どもたちに、確かな学力、豊かな人間性、自らを律する心、健康と体力、郷土を愛し守る心をバランスよく育ててまいります。

社会教育にあつては、基本理念を「ふるさとを知り、ふるさとを好きになり、ふるさとを守り育てる」と定め、町民一人ひとりが、心の豊かさや生きがいを持ち生活するために、いつでも、どこでも、だれもが学ぶことのできる生涯学習社会の実現に努めてまいります。

このような考えのもと、湧別町の教育目標を

- 1 社会に参画できる実践的な能力をはぐくむ
- 2 自他を尊重し、ともに支える豊かな心をはぐくむ
- 3 自らを律し、自ら行動する積極的な心をはぐくむ
- 4 健やかな体と生命を尊ぶ心をはぐくむ
- 5 自然・環境を守り、伝統と文化を尊重し、郷土を愛する態度をはぐくむ

5つの教育目標を制定し、令和7年度に取り組む重点施策について申し上げます。

第一は、「小中一貫教育の推進について」であります。

今年には本町全ての学校が義務教育学校になる始めの年になります。湧別町の新しい教育を創造する節目の年として、互いに連携を図りつつ、それぞれの学校の特色を活かした学校づくりを推進し、教職員が一丸となって9年間の学びに責任を持つ学校づくりを進めてまいります。

小中一貫教育を進めるうえで、子ども同士が理解し合い、頼り合えるなどお互いに安心できる人間関係を築ける学校づくりが重要であります。「一人残らず全ての子どもの学ぶ権利を保障する」「どの子どもも安心して学ぶことができる環境を創る」という理念に基づき、全ての教職員が9年間の全体像を把握し、互いに協力しながら学習指導や生徒指導などの教育活動に取り組みながら子どもたちを守り育てる「学校づくり」を行ってまいります。

また、幼児期から前期課程へ学びを接続することも重要であります。幼保小期間の教育の充実のため、こども園や保育所と互いに連携と交流が図れるよう検討してまいります。

第二は、「学力向上の取り組みについて」であります。

昨年度の本町の全国学力・学習状況調査での平均正答率は、小学校が全国平均と概ね同等程度であります。中学校では全国平均に比べ低い状況にあるものの、これまで各学校において取り組んでいる「学び合いのある学び」が一定程度の成果を見せております。本年は基礎学力の定着や思考・判断・表現力を養うため、主体的・対話的で深い学びの授業に取り組み、湧別町全体の学力向上を図ってまいります。

また、北海道大学大学院教育学研究院の支援により取り組んでまいりました「学びの共同体」の授業スタイルを全ての義務教育学校で取り入れ、「湧別町学校力向上プラン」をより一層推進していくとともに「湧別町型学び合いのある学び」を充実させ、子ども誰一人もひとりにせず、どの子どもも安心して学ぶことができる学校づくりに取り組んでまいります。

第三は、「ICT教育について」であります。

現在GIGAスクール構想により整備された1人1台端末を使った学習は日常のこととなり、児童生徒は他の文房具と同じようにタブレットを使いこなしております。タブレットを活用することで、学習がより一層充実するとともに、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現し、全ての子どもたちの可能性を引き出すための基本的ツールとなるよう、引き続き活用を推進してまいります。

また、デジタル教科書や Google Workspaceなどをタブレットで活用することにより、より深い学びや話し合い学び合いを促進し、子どもたちにとって最適な学習環境が実現するよう努めてまいります。

第四は、「安全・安心な学校づくりについて」であります。

感染症やさまざまな理由により、児童生徒が通常の教育活動を行えなくなった場合でも、オンライン授業やタブレットの持ち帰りを行い、子どもたちの学びを確実に保障し学びを止めない対策を行ってまいります。

暑さ対策については上湧別学園が開校することにより、町内全ての学校にエアコンが設置されますので、安全安心な教育環境のもと子どもたちの健康を守る体制を整備してまいります。

登下校の安全確保については、「湧別町通学路交通安全プログラム」に基づき、危険個所の早期発見、点検を実施するとともに、自転車通学者にはヘルメット着用を義務付けるなど、児童生徒の交通安全に努めてまいります。

第五は、「豊かな心と健やかな体の育成について」であります。

子どもたちが互いの良さを認め、話し合い聞き合うことにより他者の意見や立場を理解し認め、社会の一員として心豊かに成長できるよう、指導の充実を図ってまいります。

いじめについては、決して許されない行為であるとともに、どの児童生徒にも起こりうるものであることを十分認識し、児童・生徒、保護者及び教職員に対し定期的なアンケート調査を行うなど、積極的認知に努め、早期発見と素早い対応を行うことで、児童生徒を見守り、健やかな成長を促すため、家庭や関係機関と連携して取り組んでまいります。

不登校については、日頃より児童生徒を注意深く見守りながら教育相談の体制を強化し、家庭や関係機関と連携を図り早期解決に努めてまいります。また、子ども一人ひとりが、「学校に行きたい」「みんなと過ごしたい」と思えるような、より良い集団を作るため、教職員による「居場所づくり」と、教職員、子どもによる「絆づくり」に努め、安心して学校生活が送れるよう努めてまいります。

第六は、「特別支援教育について」であります。

インクルーシブ教育の理念を基に、支援を必要とする児童生徒個々に応じた支援を行うため、本年度は通級指導教室を上湧別学園にも設置し、ゆうべつ学園と上湧別学園の2校で開設するとともに、芭露学園についてはゆうべつ学園か

ら教員が巡回して通級指導を実施してまいります。

また、特別支援教育支援員を増員し、児童が安全で安心して学校生活を送れるよう環境を整えるとともに、手厚く細やかな支援を行ってまいります。

第七は、「中高一貫教育について」であります。

「地域の子は地域で育てる」の理念のもと、生徒たちが6年間を通して生き生きと学ぶためにこれまでも中高一貫教育を推進してまいりました。

しかし、教育環境の変化や湧別高校への進学率の低迷などにより、昨年度より連携の柱を「主体的・対話的な教科学習」「地域と連携した探求的活動」に改めて、深い学びや地域参画力を養い、問題解決能力を身に付けるための取り組みを行っております。本年度は、町内全ての学校が義務教育学校となりますが、この取り組みを継続し、新たな義務教育学校と高等学校との一貫教育を推進してまいります。

第八は、「北海道湧別高等学校への支援について」であります。

湧別高校の魅力化と入学者数の増加を図るため、「北海道湧別高等学校存続対策事業」を継続して実施してまいります。湧別高校で取り組んでおります探究活動「未来計画」や生徒会活動をはじめ、学力向上推進事業への支援を継続して行っております。また、本年度は新たに生徒の全国募集事業「みらい留学」へ体験入学する参加者への交通費の支援を行ってまいります。

第九は、「国際理解教育の推進について」であります。

全ての学校において外国語指導助手の派遣回数を増やし、生きた英語や異文化を学ぶ授業を支援するほか、引き続き「英検チャレンジ事業」を実施して英語検定資格の取得を目指してまいります。

国際交流活動については、友好都市であるカナダ・ホワイトコート町及びニュージーランド・セルウィン町との交換留学事業を継続して行い、相互交流事業については、ニュージーランドへの派遣を実施いたします。また本年度は、7年ぶりにカナダ・ホワイトコート町から生徒とその保護者からなる訪問団が来町する予定であります。中高生はもちろんのこと多くの町民の方々が異文化に触れ、交流ができる事業や歓迎夕食会などを催し、両町のさらなる友好交流の発展に努めてまいります。

第十は、「学校給食センターの運営について」であります。

学校給食については、施設内の衛生管理を徹底し、地場産や北海道産の食材を優先的に使用した栄養バランスの優れた給食を提供してまいります。

また、食育については、食の大切さや食に関する正しい知識と食習慣を身に付けるための栄養教諭による指導を行ってまいります。

本年度の給食費については、賄材料費の高騰が続いておりますが、昨年同額に据え置きとし 1 食当たり前期課程 247 円、後期課程 285 円で提供してまいります。

施設整備については、厨房の床改修工事、空調設備改修工事を実施し、安定した給食の提供に努めてまいります。

第十一は、「社会教育の振興について」であります。

「第3次湧別町社会教育中期計画」で定めた基本理念「人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる」に基づき、子どもから高齢者までの全ての町民が心身ともに健やかで充実した生活を営めるよう、それぞれのライフステージに応じた取り組みを進めてまいります。

家庭教育については、全ての教育の出発点であり、子どもの基本的な生活習慣や自立心の育成、心身の調和のとれた発達を図る上で重要な役割を担っております。

これまで、家庭教育についての学習機会場の場として「家庭教育研修会」を開催しておりますが、近年では地域とのつながりや人間関係の希薄化により、子育ての悩みや不安を抱えたまま孤立してしまう家庭が少なくありません。

このため、子育て世代包括支援センターと連携を密にし、家庭教育や子育てに関する情報提供や気軽に相談できる体制づくりに努めるとともに、「家庭教育研修会」が学習機会場の場としてだけでなく、保護者同士のネットワークが広がるような研修会になるよう努めてまいります。

また、親子で参加できる体験学習などの実施にも努めてまいります。

青少年教育については、次代を担う全ての子どもたちが心身ともに心豊かに成長することは、いつの時代においても変わることのない願いであります。

このため、小学生を対象に実施しております「児童宿泊研修会」や「リーダー研修会」などの自然体験や集団生活体験を通して健全な生活習慣を身に付ける機会を提供するとともに、青少年指導センターと連携し、「ミニバレーボール大会」や「フットベースボール交流会」など、子どもたちの全町的な交流機会の提

供に努めてまいります。また、中高生リーダーの養成と活用にも努めてまいります。

さらに、友好都市である新篠津村との交流事業は、本年度は新篠津村を舞台に開催し、友好と交流の輪を広げてまいります。

青年団体協議会は、各種イベントへの参加協力など地域に根ざした活動を積極的に展開しておりますので、今後も自主性を尊重しながら活動の支援に努めてまいります。

成人教育については、興味関心が多様化する世代であることから、幅広い学習ニーズに応える学習機会の提供と、学習意欲を喚起することが必要でありますので、成人期に求められるニーズや今日的課題に応じた学習機会の提供に努めてまいります。

町民有志により実行委員会を組織し開催しております「町民大学」については、貴重な学びの場を提供いただいておりますので、引き続きその活動支援に努めてまいります。

また、町民自ら企画実施する自主事業についても、生涯学習振興奨励事業補助金により町民の自主的・自発的な学習活動を支援してまいります。

高齢者教育については、誰もが生涯を通じて学び、豊かな知識・技術・経験を生かせる学習活動の場として、「チューリップ生きがい大学」やアクティブシニアをターゲットにした「シニア短期大学事業」を提供し、高齢者の「生きがい」と「仲間づくり」につながる学びの場を支援してまいります。

社会教育施設については、生涯学習活動の拠点として必要不可欠なものでありますので、町民が安全・安心かつ快適に各施設を利用できるよう、適切な維持管理に努めてまいります。

本年度は、文化センターTOMの外壁改修のほか、湧別プールの鉄骨塗装などを行います。

第十二は、「スポーツの振興について」であります。

スポーツ活動は、誰もが心身ともに健康で充実した生活を送り、活力ある健全な社会を形成するために大きな役割を担っております。

このことから、本年度においても体育協会をはじめスポーツ少年団や自治会などと連携し、年齢層に応じたスポーツ教室や大会を開催し、生涯にわたってスポーツに親しむ機会の拡充に努めてまいります。

運動指導職員による運動・トレーニング教室については、町民ニーズを踏まえ

指導回数を増やすとともに、定期的に運動指導・運動相談を行うことで町民の運動不足の解消と、福祉課と連携した運動教室の指導にも努めてまいります。

令和5年度に締結したレバンガ北海道との包括連携協定に基づき、本年度からスポーツ少年団、義務教育学校及び高校のバスケットボール部を対象にレバンガ北海道のアカデミーコーチを年間通して招へいし指導してもらうことで、選手のスキル向上とスポーツの楽しさを実感できる取り組みを進めてまいります。

「チャレンジデー」については、これまで運動・スポーツ、健康づくりの習慣化、きっかけづくりを目的に取り組んできましたが、多くの町民に参加していただけよう内容の充実に努めてまいります。

スポーツ大会の開催や合宿を誘致することは、スポーツの普及や振興だけでなく交流人口の増加や経済効果など、地域の活性化につながることを期待されますので、本年度も「サロマ湖 100kmウルトラマラソン」や「上野カップ少年柔道大会」を開催するとともに、合宿の誘致にも取り組んでまいります。

第十三は、「芸術文化の振興について」であります。

町民が潤いと豊かさに満ちた人生を送るためにも、芸術文化が日常生活の中で身近な存在であることが大切です。

このため、子どもから大人まで幅広い年代に対して優れた芸術文化に触れる機会を提供するとともに、「良いもの見よう聞こう会」などの町民有志団体が企画する芸術鑑賞会に対して支援してまいります。

個人の文化活動については、各講座への参加の周知・啓発と文化連盟をはじめとする文化サークル活動に対して継続的に支援しながら、町民が芸術や文化に触れる機会を創出してまいります。

また、文化センターさざ波には、展示専用のギャラリーがありますので、創作活動の発表機会の場として多くの町民に活用してもらうPRにも努めてまいります。

第十四は、「部活動の地域移行について」であります。

「部活動の地域移行」については、令和6年度に実施した児童・生徒、保護者及び教員への意向調査の結果、7割が休日の地域移行には賛成しているものの、指導者などの人材確保や指導体制について問題意識が高い傾向にあります。

そのため、関係団体や地域人材との連携のもと、意向調査や種目ごとの実情を踏まえ、令和8年度より休日における部活動の地域移行に向けて、引き続き「湧別町部活動地域移行検討委員会」において検討を進めるとともに、教員の部活動

指導を補完する部活動指導員の確保に努めてまいります。

第十五は、「博物館及び文化財保護活動について」であります。

ふるさと館JRY・郷土館については、収蔵資料の整理を進め、適正な保存に努めてまいります。また、資料や遺跡を活用した学校教育との連携による博物館学習を継続し、子どもたちが歴史文化に触れる機会を提供してまいります。

文化財については、遺跡を保護し、次世代に伝えていく必要があります。

平成30年度より実施してきた北海道指定史跡「シブノツナイ竪穴住居跡」の調査は、現地での発掘作業が終了しましたので、総括報告書を作成いたします。内容については、調査検討委員会、文化庁などから意見を聞いて進めてまいります。

第十六は、「図書館活動の振興について」であります。

図書館については、学習活動の重要な拠点であります。そのため、本の購入、展示、質問への対応などの図書館機能の充実に努めてまいります。

子どもの読書機会を増やすため、ブックスタート事業、学校図書支援、移動図書館車運行、さらには各ボランティアとの協働による読み聞かせ会などの読書機会の提供を行い、読書普及活動の推進に努めてまいります。

また、図書館システムの安定的運用のため、機材とシステムの更新を行います。

以上、令和7年度の教育委員会の所管行政に関する執行方針を申し上げます。

教育委員会では、町民が生涯学びつづける環境づくりのため、職員一丸となり教育振興に取り組みますので、町民の皆さま及び議員並びに教育関係者のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

湧別町教育目標

- 1 社会に参画できる実践的な能力をはぐくむ
- 2 自他を尊重し、ともに支える豊かな心をはぐくむ
- 3 自らを律し、自ら行動する積極的な心をはぐくむ
- 4 健やかな体と生命を尊ぶ心をはぐくむ
- 5 自然・環境を守り、伝統と文化を尊重し、郷土を愛する態度をはぐくむ

(平成 24 年 2 月 21 日制定)

湧別町学校教育目標

- 1 自ら学んで、知性を高め、正しく判断する子どもを育てる
- 2 思いやりの心を持って、お互いに協力する子どもを育てる
- 3 忍耐力と自律の心を持ち、進んで行動する子どもを育てる
- 4 健やかな心身を持ち、自他の生命を尊重する子どもを育てる
- 5 ふるさとに学び、ふるさとを愛する子どもを育てる

(平成 24 年 2 月 21 日制定)

湧別町社会教育目標

- 1 自ら学び、地域に生かせる人を支える
- 2 他人を思いやる、あたたかく豊かな心の人を支える
- 3 人と人とのつながりを深める人を支える
- 4 健やかな心と体をめざす人を支える
- 5 ふるさとを知り、愛する人を支える

(平成 25 年 3 月 28 日制定)